

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

中国の「国境文化」の人類学的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5668

現代中国における少年の洗脳方法

絵本小児書が描く辺境新疆の歴史と文化

楊 海英（静岡大学）

Ⅰ はじめに——小児書とは何か

日本の子供たちは漫画を読んで育つのに対し、中国の子供たちは小児書（ショーアルシュ）に親しむ。小児書はまた連環画ともいう。多少の違いはあっても、だいたい幅 10cm、長さ 14、15cm 前後のことが多い。小児書は子供にとって、貴重な財産となる。子供たちは小児書からさまざまな知識を吸収して、その人生観が形成されていく。

小児書のジャンルは歴史の故事から革命の物語、外国の有名な文学作品や科学知識の普及を意図したものなど、多岐にわたる。なかでも特に歴史故事やそのときどきの国内国際情勢を反映したものが、人気である。

個人的な経験で恐縮であるが、内モンゴル自治区生まれの私も子供のころは無類の小児書狂だった。文化大革命（1966-1976）期間中だったために、「偉大な中国共産党」を宣伝するごく少数の革命故事のほかに、ソ連の文芸作品しかなかった。『三国志演義』や『水滸伝』など、評判の歴史物語はすべて「封建社会の毒草」とされ、入手と閲覧が固く禁止されていた。それでも、1950 年代に出版された 60 巻本の『三国志演義』は人気が高く、民間には政府の禁止令を無視して秘匿する者もいた。私はそれを読みたくて何回も馬を飛ばして数十キロもの草原の道を走って行っては貸出を頼みこんだことがある。子供に「封建社会の毒草」を貸したことで「反革命分子」にされる危険性もある状況の下で、小児書を私に密かに読ませてくれた人たちの御蔭で、私は中国の古典に関する知識を少しずつ増やしていった。

文化大革命が終わった後、小児書の多様性は少しずつ部分的に復活した。古典の復刻が認められるようになり、近年ではむしろ「中華民族の優秀な伝統」だと評して、青少年に対する「愛国主義教育の素材」として利用されるようになった。また、革命故事のなかでも、特に「抗日もの」は以前にもまして共産党政権の正統性と「侵略者の日本」批判のキャンペーンに活用されるようになった。小児書はいわば、「人間の愛国主義的な政治教育は幼少期から」（愛国主義的政治教育從娃娃抓起）という洗脳政策の道具に利用されるように変わってきたのである。日本の少年漫画に政治色が希薄であるのに比べて、現代中国の小児書は強烈な政治的なイデオロギーを有しているのが、特徴的である。

この小文は洗脳教育の道具に変質した中国の小児書がもつ政治性に注目して、その具体的な内容の一環を紹介したい。材料としては、西部の国境地域の新疆ウイグル自治区を描いた「新疆歴史画叢」を取り上げたい。60 冊の小児書からなるこのシリーズは新疆人民出版社から 2006 年 5 月から 2008 年 9 月にかけて、継続的に国営新疆人民出版社から刊行されたものである。大きさはすべて 13.5cm × 10.0cm である。なお、絵本の文章の執筆者は中国人すなわち漢人が圧倒的に多く、モンゴル人とウイグル人と思わしき人物がそれぞれ一人ずついる。

同シリーズは強い政治的な目的をもって刊行されたことを全絵本の巻頭にある「出版の説明」が示している。それは以下の文である。

新疆歴史画叢（という小児書シリーズ）は、新疆ウイグル自治区社会科学界聯合会が編集し、

新疆の歴史を正しく宣伝する主旨で刊行する、大型の社会科学の一般向けの書物である。叢書は企画から編集、そして出版に至るまで、自治区党委員会の指導者たちによる指導と指示を受けた。新疆社会科学院と自治区共産党史研究室をはじめ、自治区精神文明建設指導委員会事務局と新疆人民出版社、多くの専門家たちの力で出版したものである。

このように、同シリーズはただ単に児童や少年に向けた娯楽用の絵本ではないことが明らかである。共産党政府が肝煎りで宣伝している「新疆は古くから我が国の固有の領土」で、ウイグル人などの民族も「我が国の多民族の大家庭の一員」だという政治的な理念を少年たちの頭に叩きこむためである。つまり、共産党の洗脳用のイデオロギー的な道具である。このような絵本を読んで育つ少年たちは、中国の「愛国主義者」になっていくことが期待されているのである。

いうまでもなく、同シリーズが出版された背景には、「我が国の固有の領土」に住む「幸せな多民族の大家庭」の成員たちによる不満と抵抗がある。新疆ウイグル自治区では1989年5月にイスラーム教徒たちによる大規模な抗議集会が首府ウルムチで開かれたことがある。ムスリムたちの風俗習慣が尊重されていなかったことへの意思表示である（堀 1995: 203-204, 535）。1990年4月にはキズルス・キルギス自治州で「東トルキスタン共和国」の建国を求める「聖戦を目的としたテロ組織」が摘発された（楠木 1995: 925）。2008年になると、ウルムチやカシュガルなど各地で「テロ行為」が報告され、ついに翌2009年7月5日に「ウルムチ暴動」が発生した。同シリーズはこうした環境のなかで、大急ぎで世に送り出されたものである。いわば、少年たちを洗脳して、緊張感が続く「愛国の前線」に予備軍として送り出そうという国家任務を帯びた絵本である。

私は60冊からなる新疆画叢を大きく三つの部分に分けた。第一部分は神話の古代からティムール朝（中国では明朝）に至る。つづいての部分は中国とはほぼ無関係のモンゴルのジュンガル・ハーン国時代から清朝末期までの時期である。そして、中華民国や中華人民共和国が如何にソ連と拮抗して諸民族を中国領内に組みこんだかの時代である。以下では各巻の内容を簡単に紹介し、その性質を示しておく。ただ、描かれている内容が「事実」かどうかを検証する迷宮入りの作業は基本的にしない。

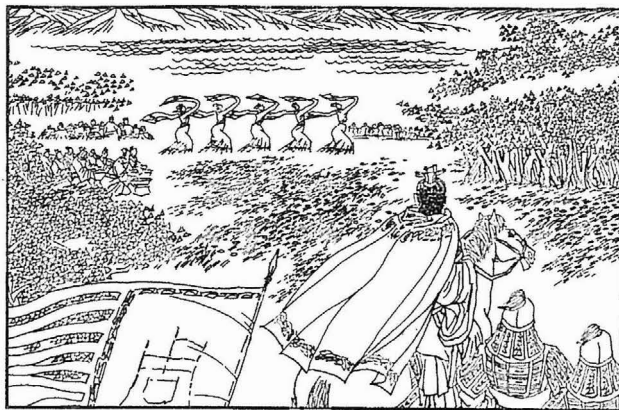
II 描かれた「古くからの我が国の領土」：新疆

2.1 西域諸国時代からティムール朝まで

この部分は17冊ある。

1. 『周穆王西遊記』、銭伯泉撰文、李虎林絵画、2006年5月物語のあらすじ：

紀元281年に今の河南省にあたる汲県に住む不淮という男が盗掘で大量の竹簡を発見する。この竹簡のなかに2300年前の魏国が編んだ『穆天子伝』が入っていた。それによると、穆天子は紀元前1001年前に即位した賢い王だった。彼は前984年に四頭の駿馬に引かれる馬車を造って、一日千里を走るスピードで各地を回った。周の北にある犬戎国を回り、黄河を祭ってから西へ進む。途中で珍獣を狩りながら、赤鳥国や羽陵国、それに酈韓国を経て西王母の国に着く。西王母の国は「極楽の世界」で（図1）、「歓迎」された穆王と西王母は瑤池のほとりで会い、連日、宴に耽る。二人は再会を誓いあつてから別れるが、その際に穆王は山に「西王母之邦」との字を



62 周穆王继续西行,先后经过玄池、苦山、黄鼠山,到达西王母国。这里是西方的“极乐世界”,山清水秀,百花盛开,凤凰飞翔。居民欢迎周穆王的到来。

図1: 西方の「極楽世界」で地元の民に歓迎されている周の穆王

刻んだ、という。

この物語は穆王が現地において「歓迎」されたことと、最後に穆王が西王母の国の山の岸壁に刻辞した点を強調し、周穆王が西遊したところを今日の新疆に特定しようと、企図している。

2. 『古代高昌』、薛宗正撰文、劉芸中絵画、2007年12月

物語のあらすじ:

今日のトルファン盆地は古代において高昌国と称されていた。アスターナ古墳から出土した漢人のミイラや漢文資料がこの地は漢代や唐代から漢人の居住地だったことを証明している。紀元前 102 年に漢の將軍李廣利が大宛（今日のウズベキスタンのフェルガーナ地域）遠征の帰りにトルファン盆地に城を築いた。その際に動員されたのが敦煌の高昌里の漢人たちだったから、この地も高昌壁と呼ばれるようになった。後漢になってからは匈奴の攻撃を度々受け、亀茲など西域の諸国も漢朝への帰属と離反をくりかえした。それでも、前涼や前秦、西涼、北魏などの時代においても漢人の居住はつづいた（図 2）。北方から柔然、突厥が現れると、多民族化が進むが、終始、隋唐への帰順が主流だった（図 3）。反乱が起こるたびに、中原の王朝が鎮圧し、それも人民に支持されたという。

このように、漢人も古くから新疆の住民の一つであることと、新疆で反乱が起これば、「中央政府は人民に支持されて鎮圧する」場面が謳歌されている。そのような歴史を示す石碑類が今日に伝わっているということにも触れている。



47 高昌国共存在 198 年, 先后更替了沮渠氏、阚氏、张氏、马氏、麹氏, 总计五氏王朝。境内居民由汉人为主的多民族组成, 通行汉语汉文。

図 2: 計 198 年間も存続した高昌国の居民は主として漢人からなり、漢語が用いられていた



88 唐朝发师之后, 高昌国中传唱着一首民谣: “高昌兵马如霜雪, 汉家兵马如日月, 日月照霜雪, 回首自消灭。” 充分反映高昌人归属唐朝的心情。

図 3: 唐の軍隊が出発したと聞き、高昌の人々は唐への帰順を表す歌をうたった

3. 『佛国于闐』、薛宗正撰文、姜浩林絵画、2006年12月

物語のあらすじ:

今日のホータン地区は古代においては西域大乘仏教の中心地の一つだった。19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、イギリス国籍のハンガリー人スタインがホータンにやってきて「盗掘」をし、出土したカロシティ文字と佛教壁画を発見して世界を驚かせた。この地にはインドからやってきたシャカ族の一部族と「黒い眼、黒い髪」の羌族系との混血が進んだ。一時は匈奴に支配されたものの、74 年に漢朝の班超が親匈奴の王を斬殺したことで、親漢になった（図 4）。8 世紀には漢人系の王女が髪の中のなかに蚕の幼虫を隠して別の系統の王族に嫁いで、養蚕の技術を伝えた。さまざまな地方政権が興ったものの、みな中原の王朝と通婚し、「義父と婿」の関係を結んでいた（図 5）。美しい仏教王国のホータンはイスラームを信仰するカラハン朝に滅ぼされた。

多民族同士の混血があったとしても、そのなかには漢人の血も混ざっている点と、地元に誕生した政権は漢人の婿を自認していたとされることがクローズアップされている。この点は匈奴に王昭君を、



31 74年漢使班超超経于闐、刺殺大巫。自此于闐巫教全面衰落。广德由依附匈奴转为亲汉,也为佛教的发展扫清了障碍。
図4: 74年に漢朝の使者、班超はホータンのシャマンを殺害したことで、ホータンも親匈奴から親漢に転じた



83 李圣天对中原王朝皇帝称“阿舅”,自称为“甥”,与河西沙州归义军和亲,南结好吐蕃、泥婆罗、北印度诸邦,继续恢弘佛法,以沙海绿洲中的佛教护法神自居。
図5: ホータンの王は中原王朝に対し、婿と称した

チベットの王に文成公主を派遣して結婚させた事例を挙げて、相手を「我が国の古代少数民族」と主張するのと同じレトリック（Bulag 2002:63-102）が使われている。

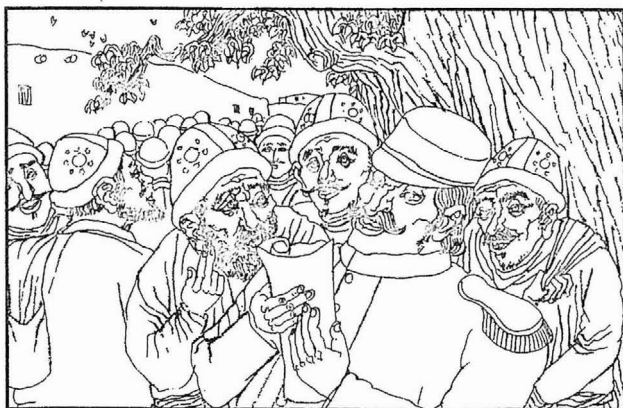
4.『鳩摩羅什』、薛宗正撰文、劉剣鋌絵画、2006年12月物語のあらすじ:

今の新疆拜城县にあるキジル千佛洞の前にクマラジュの銅像が立っている。彼はここ、古代亀兹国が生んだ偉大な宗教改革家にして翻訳家だ。この亀兹国が古代にトカラ文字を使っていたことをつぎとめたのは、イギリス人の中尉だった（図6）。クマラジュの母は亀兹国の公主だった。幼少の時から西域各国の言葉に精通したクマラジュは22歳で亀兹国の国師になる。激動の歴史のなか、亀兹国にもまた中原王朝の大軍が現れていた（図7）。クマラジュは404年に長安に拉致され、後秦国の国師のポストにつく。彼はさまざまな仏典を漢語に翻訳した。それまでの漢語仏典は「旧訳」とされていたが、クマラジュの訳は新訳と呼ぶ。今日、漢伝佛教のほとんどの典籍はすべて彼の翻訳だ。その影響は日本と朝鮮にも伝わっている。

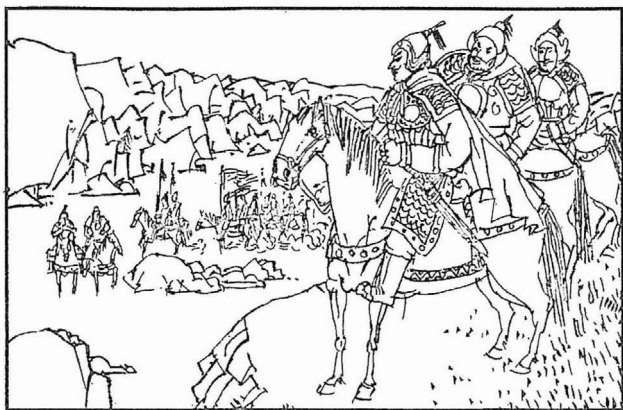
一見、仏教典籍が翻訳されるという素朴なプロセスを紹介しているようだが、漢軍が亀兹国に入った行為を絶賛していることと、イギリス人による発見をマイナス的なニュアンスで表現している描き方に、中国人中心の愛国主義の匂いがする。

5.『統一西域英雄譜』、薛宗正撰文、賀軍絵画、2006年5月物語のあらすじ:

漢朝の時代の李廣や霍去病、趙破奴、甘延寿、陳湯らが西域を征服して、漢の版図に入れた「活躍ぶり」を描いている。西域の楼蘭王朝などは、「奴隷制の匈奴」

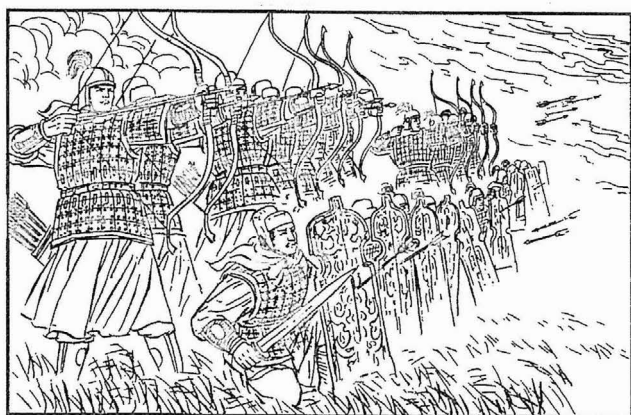


9 1889年、一个名为鲍尔的英国中尉赴库车旅游,从文物贩子手中买了一部桦树皮古书,首次发现古吐火罗语文。吐火罗语文分A、B两种方言,A方言为古焉耆语,B方言就是古龟兹语。
図6: 1889年、トカラ語の古文書を現地から買い付けたイギリス人の中尉



55 当年,苻坚任命佐命功臣吕婆楼之子、氏族名将吕光为师,率步兵10万、铁骑7000西伐龟兹及其属国焉耆。这是汉朝以来我国中央王朝大军再次出现于西域。

図7: わが国の中央王朝の大軍が初めて西域に現れる



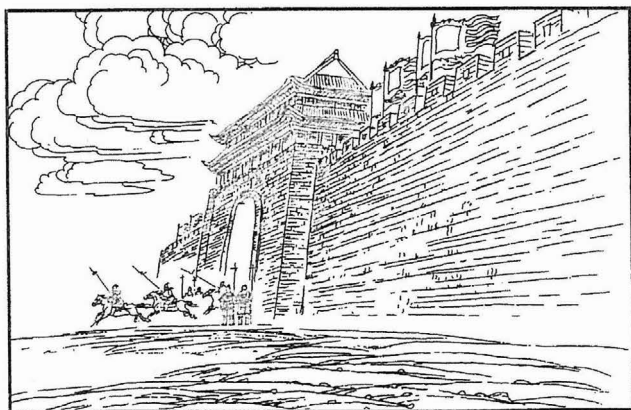
23 赵破奴兵力不多,却行军神速,一路传捷,在车师大败匈奴,初次在西域显示了汉朝强大的军事力量。

图 8: 車師国で匈奴を打ち破り、漢朝の軍事力を西域に見せつけたシーン



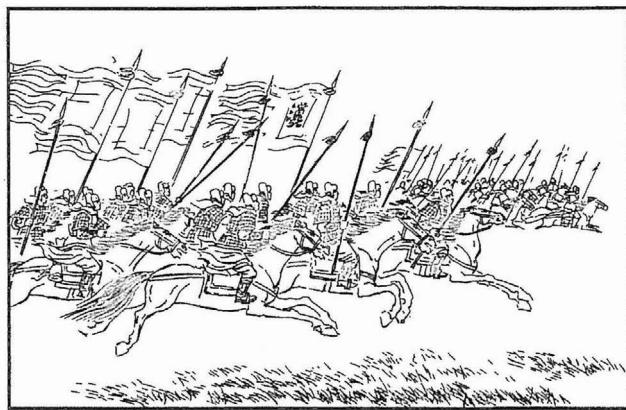
74 傅介子出帳,警告同来的楼兰官员:“天子令我处死你们的国王,汉朝大军马上到来,你们不要妄动。”于是楼兰遂重新归附汉朝。

图 9: 楼蘭の大臣たちを処刑し、漢朝に服従させた



131 汉朝任命郑吉为首任西域都护,授节杖、印绶,封安远侯。西域都护府的创立标志着新疆正式纳入中国版图。

图 10: 西域都護府の設置により、新疆は正式に中国の版図に編入された



190 公元前 33 年,汉朝正式褒奖甘、陈二将,甘延寿被封义成侯,陈汤封关内侯,汉军将士铁马金戈的英雄事迹终于被铭刻在历史纪功碑上。

图 11: 漢軍の英雄的な事績は歴史に刻まれた

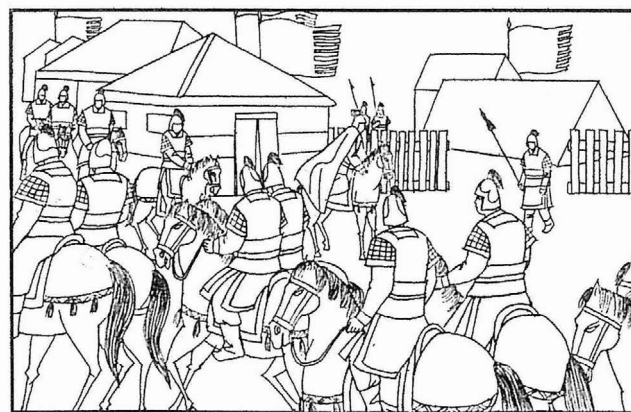
の影響下にあった。奴隸制と異なる封建王朝の漢朝は先進国である。漢朝は強い軍事力で匈奴を破り、楼蘭を征服して帰属させた(図 8、図 9)。紀元前 60 年には鄭吉を西域都護に任命したことで、新疆が中国の版図に正式に組み込まれた(図 10)。漢はイリ河まで屯田を拡大し、その英雄たちの行動は歴史に刻まれた(図 11)。

この話はいわば「匈奴の右腕たる西域を絶つ」歴史を演繹している。漢は善、匈奴は悪として描いている。漢軍は勇ましく格好良く、匈奴は醜悪の姿で登場しているのが特徴的である。

6. 『陳湯』、錢伯泉撰文、李鴻絵画、2006年5月

物語のあらすじ:

先進的な漢王朝と奴隸制の匈奴が西域をめぐる争うなかで、漢側で「活躍」した將軍、陳湯の一生を描いている。貧しい家に生まれ、匈奴を撃退して立身出世に成



48 汉军在离鄯支城 60 里的地方安营,牙旗猎猎,军马嘶嘶,十里连营,刀光剑影,好不威风!

图 12: 威風堂々たる漢軍

功するものの、政争に巻き込まれて流刑にされる最後で終わる。特に強い漢軍の威風ぶりを前面に押し出している(図12)。

7.『常慧』、銭伯泉撰文、高萍絵画、2006年5月

物語のあらすじ:

常慧は太原の出身だ。この地の漢人たちはつねにモンゴル高原の匈奴に侵略され、苦しめられていた(図13)。そのような環境のなかで育った常慧は漢王朝のために働いた。彼は蘇武とともに匈奴に出使し、抑留された経験からかの地を熟知していた。のちに漢王朝に帰ってからはその経験を生かして匈奴を打ち破っただけでなく、西域の烏孫や亀茲国を漢王朝に帰順させる時も、容赦なく「反乱分子」を処刑した(図14)。常慧は偉くなってからは漢王朝のために、「外交と辺境に住む民族事務」を管理運営していた(図15)。

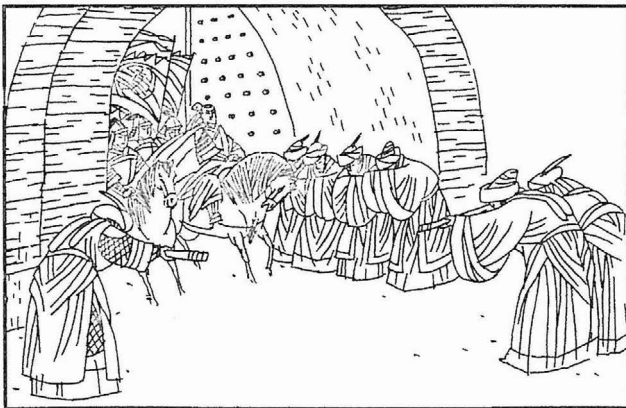
古代の話を現代の用語で語っているのが、その特徴である。亀茲や烏孫の地を漢の「辺境」とし、漢人以外の人々を「少数民族」とし、彼らの活動を「民族事務」と呼んでいる。そして、反乱すれば、「正義のために処刑」されたことも賛美されている。

8.『班超』、薛宗正撰文、肖天絵画、2006年5月

物語のあらすじ:

今のハミ市に一つの銅像が立っている。彼は漢の明帝時代の班超という英雄だ。班超は西域の親匈奴の鄯善国や于闐国を征服し、凶悪な匈奴の勢力を排除して、漢朝に服従させた。漢朝に帰順したことで、西域各国は繁栄し、シルクロードも開通した(図16)。

班超が武力で各国の内政に干渉し、残忍な方法で匈



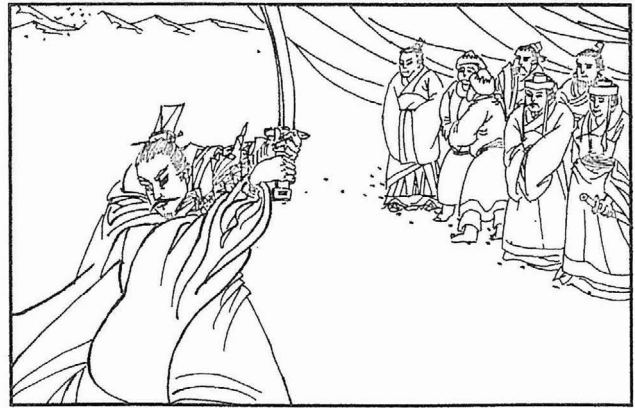
43 于闐是西域南道最大的地方政权，广德王的降汉引起一连串的政治反应，扞弥、婼羌等国也纷纷重新降汉。自此汉朝开始稳定地控制了丝路南道。

図16: ホータンの広徳王の降伏により、西域諸国はこぞって帰順し、漢朝はシルクロードをコントロールできるようになった



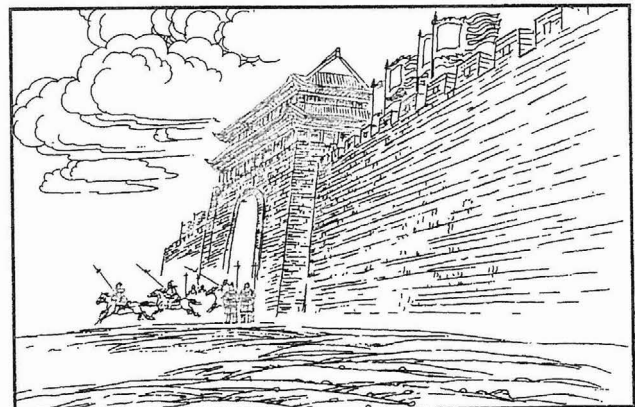
2 太原地处长城以南不远，是汉朝的北方边境地区。蒙古高原的匈奴人经常在秋高马肥时侵入长城，烧杀抢掠，太原一带的汉朝边民深受其害。

図13: 秋になると、モンゴル高原の匈奴たちは侵入し、漢朝の辺民を殺害し、略奪した



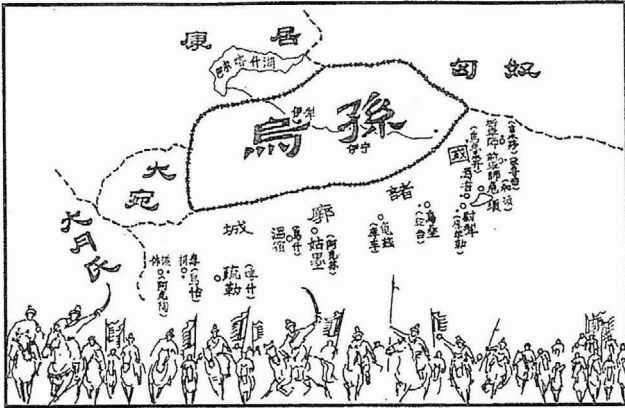
72 常惠当着西域各国将士之面，将姑翼斩首，严惩了这个西域叛乱的首恶分子，回朝复命。

図14: 漢の常慧は西域諸国の将校たちを前に、反乱分子を処刑した



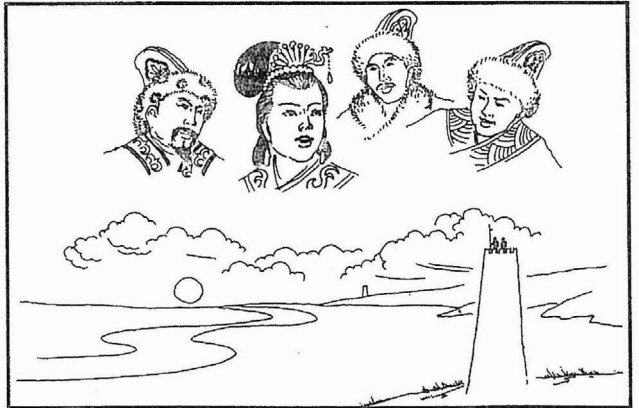
131 汉朝任命郑吉为首任西域都护，授节杖、印绶，封安远侯。西域都护府的创立标志着新疆正式纳入中国版图。

図15: 西域都護府の成立により、新疆は正式に中国の版図内に収められた



41 烏孫国地域辽阔,东接匈奴,北抵康居,西达大宛,南连城郭诸国。

図 17: 烏孫とその諸隣国



90 解忧公主在烏孫生活了 50 年,为抗击匈奴,加强烏孫与汉朝的和睦关系,促进两地之间的经济、文化、军事交流做出了重要贡献。

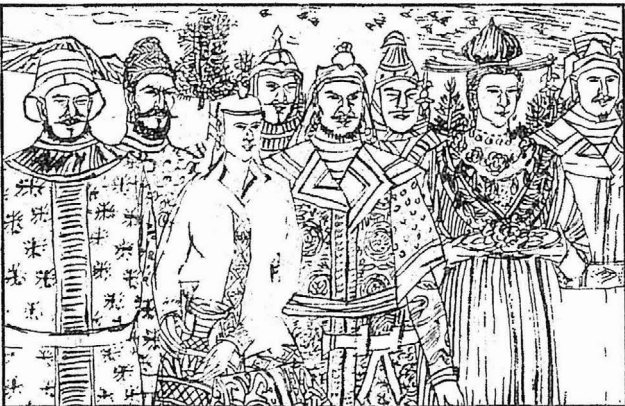
図 18: 漢の解憂公主は烏孫に 50 年間も暮らし、匈奴を排して、漢朝との和睦促進に貢献した。



93 作为杰出的外交家,猎骄昆弥审时度势,权衡利弊,打开了与汉朝结盟的大门,也为中国版图的完整归一做出了不朽的贡献。

図 19: 烏孫との結盟により、中国の版図の統一が実現できた

この絵本は漢朝の文化を先進的だと決めつけ、匈奴や西域諸国は立ち遅れているとしている。しかし、一方では西域からさまざまな文化が漢土に伝わっていたとも記しており、自己矛盾に陥っている箇所が多々ある。漢と通婚した烏孫の王は「愛国的な中華民族」で、それと敵対していた匈奴は悪人だとされている。



1 回鹘,是现代维吾尔族和甘肃裕固族的共同祖先。南北朝时期译为韦纥,隋至唐初译为回纥,元代译为畏兀儿。

図 20: 唐の回鹘は今日のウイグル族や甘肅のヨグル族の祖先だ

9. 『獵驕崑弥』、哈依夏・塔巴熱克撰文、范積瑞絵画、

2006年5月

物語のあらすじ:

烏孫は紀元前より敦煌からイリ溪谷にかけて現れた遊牧部族だ。匈奴と月氏、それに西域諸国と隣り合っていた(図 17)。その国王は昆弥と呼ばれていた。漢王朝は「匈奴の右腕を絶つ」ために細君、解憂などの公主を嫁がせ、中国の版図の完全性を維持するために努力した。古代の烏孫の王も中華民族である(図 18、19)。

10. 『古代回鶻』、薛宗正撰文、李冬絵画、2007年12月

物語のあらすじ:

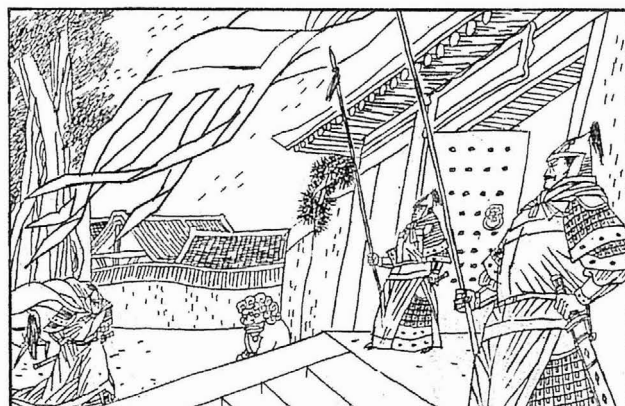
古代の回鶻は今日のウイグル族や甘肅のヨグル族の祖先だ。752 年に突厥を打ち破ってハーン国を建て、唐とも度々和親政策を取った(図 20)。ウイグルは一時、唐の内乱を鎮圧するのにも援軍を出動した。チベットの吐蕃王朝との対決を経て衰弱していった。

単純に古代ウイグルの歴史を年代順に述べているが、唐の公主を迎えたシーンがユニークである。ウイグルの王が腰を曲げて、謙った姿で堂々としている唐の公主にお辞儀している。



48 同年、楊冑所統唐朝大軍也兵逼龜茲，殺羯獵頡，占領龜茲。安西都護府晉級為大都護府，移治龜茲，以楊冑為首任安西大都護。

図 21: 反乱分子を処刑し、安西都護府を設置する



94 唐朝安西都護府 (640 ~ 808) 是继汉西域都護府之后第二个中央政府直接管理西域的政权机构，自 640 年初建安西都護府于交河、658 年升格为安西大都護府，号令西域 168 年。

図 22: 安西大都護府の命令は全西域に行きわたった

11. 『安西都護府』、薛宗正撰文、肖天絵画、2006年12月

物語のあらすじ:

安西都護府は 640-808 年の間に存在した、唐による西域支配の出先機関である。漢朝に次いで、二回目の西域統治の政府であった。強い唐は何度も反乱を鎮圧し (図 21)、大食すなわちアラブや吐番とも戦って、西域経営にあたってきた (図 22)。

唐による侵略に抵抗した西域各国の人物を醜く描き、唐側の人物を美しく、勇ましく描写しているのが、特徴的である。

12. 『玄奘』、薛宗正撰文、劉剣鋸絵画、2006年5月

物語のあらすじ:

唐の玄奘がインドに経典を学びにいく途中、当時西域と呼ばれていた今日の新疆領内を通った時の話である。亀茲国や突厥のハーン国は華やかな文化を有していた (図 23)。玄奘はインドから帰った後は、今日の西安市内にある大雁塔の下で翻訳に携わっていた。

豪華絢爛な西域諸国の文化と唐との繋がりを強調し、「我が国の文化の多様性」を示そうとしている。

13. 『北庭都護府』、薛宗正撰文、尤山絵画、2007年12月

物語のあらすじ:

清朝の乾隆年間に一人の地理学者が今日の新疆に流刑で来ていた。彼の名は徐松だった。彼は今のジムサル県で一つの石碑を発見し、それに唐代の金満県に関する内容が記されていたことを突き止めた。彼の発見は世界に衝撃を与え、スタインや日本の橘瑞超らの探検家の活動を招いた (図 24)。このジムサル県に唐代の北庭都護府が置かれ、安西都護府とならんで「古代新疆」を統治していた。



67 龜茲王設宴款待法師，席上飲用了鮮葡萄汁，演奏了龜茲樂。乐队由琵琶、箏篋和各种打击乐组成，龟兹乐是西域最著名的乐种。

図 23: 龜茲樂は西域でも有名だった



4 徐松在他的名著《西域水道记》中将这一重大考古发现公布于世，震惊了全世界。19 世纪末 20 世纪初，斯坦因、橘瑞超等探险家都曾专程到此考察。

図 24: 徐松の発見は諸外国の探検活動のきっかけとなった

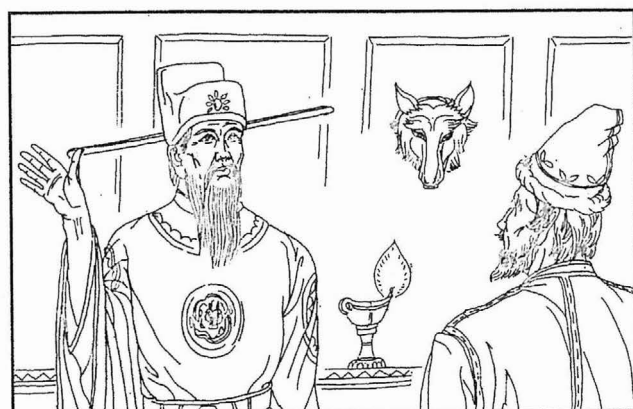


28 651年啜运率领处月、处蜜等西突厥东方属部攻陷庭州金满县、蒲类县，城外居民数千人都惨遭杀害。

図 25: 西突厥に殺害された庭州の居民

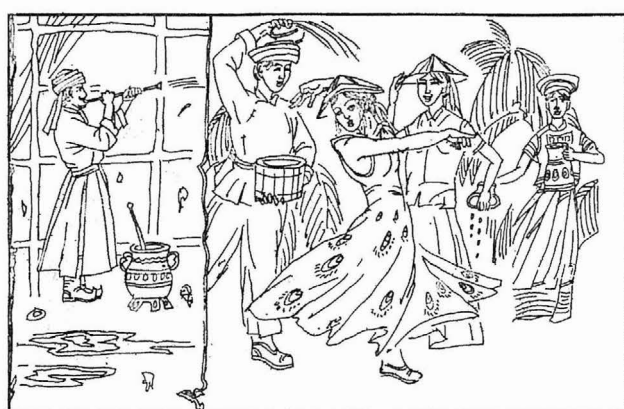
暑い季節に互いに水をかけあう習慣があり、今日では、「雲南省の我が国のタイ族」がその風習を維持している（図 27）。

宋側を中国の正当な王朝とし、当時併存していた契丹や西域諸国をその属国として位置づけている。宋の使節が「属国」に跪拝しない「高潔な人格と礼節な振る舞い」を強調している。



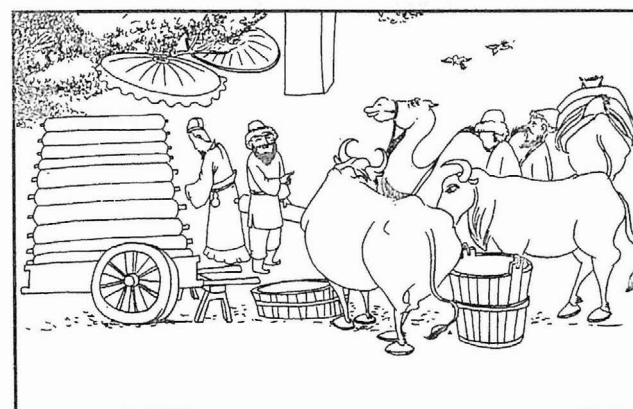
31 阿多于越派人将王延德一行安排住下后，带话说：“我是国王的舅舅，使者是不是要先拜见我？”王延德回答说：“我是奉宋朝皇帝之命而来，按照礼节不应当拜见。”

図 26: 宋王朝の使者は西域の王に跪かない



47 高昌回鹘人的“泼寒胡戏”是我国文献中有关泼水游戏的最早记载，至今这一活动仍为云南的傣族所保持。

図 27: 高昌から雲南に伝わった水かけ祭



88 汉人在西辽帝国中占有举足轻重的地位。到处都有汉人聚居，也有土著人与当地人错居。

図 28: 契丹人が建てた西遼帝国でも、漢人は重要な地位を占めていた

突厥側の人物を極力、醜悪な姿に仕立て、唐側の漢人を格好良く描いている。また、突厥側が働いたとされる残虐行為を強調し、異民族への憎しみを引き立てている（図 25）。その手法は、日本軍の空爆で中国人民（特に女性と子供）が惨殺されたとされるシーンに似ている。

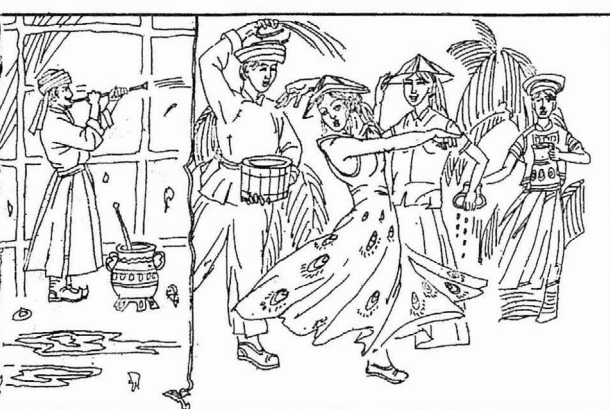
14.『王延德出使高昌』、李樹輝撰文、倪澤玄絵画、2007年12月

物語のあらすじ:

宋の時代、およそ 981 頃に、王延徳が高昌国に使者として派遣された時、途中で「古代新疆のさまざまな部族」に出会った。宋と通婚関係にあった高昌の王は「宋の甥」の立場だったから、高貴で優位に立つ王延徳も高昌側にはお辞儀をしなかった（図 26）。高昌国の人々の間には

暑い季節に互いに水をかけあう習慣があり、今日では、「雲南省の我が国のタイ族」がその風習を維持している（図 27）。

宋側を中国の正当な王朝とし、当時併存していた契丹や西域諸国をその属国として位置づけている。宋の使節が「属国」に跪拝しない「高潔な人格と礼節な振る舞い」を強調している。



47 高昌回鹘人的“泼寒胡戏”是我国文献中有关泼水游戏的最早记载，至今这一活动仍为云南的傣族所保持。

図 27: 高昌から雲南に伝わった水かけ祭

15.『耶律大石』、薛宗正撰文、羅羅絵画、2006年5月

物語のあらすじ:

契丹人の遼王朝は 1126 年に女真人の金王朝に滅ぼされた後、王族の一人、耶律大石は契丹人や漢人からなる部隊（図 28）を率いてモンゴル高原を通って、西域のエミリ（今日の新疆の額敏県）に着き、西遼王朝すなわちカラキタイを建てた。耶律大石は遼の再興を目指したが、なかなか成功せず、結局 1218 年にチンギス・ハーンの武将によって滅亡させられた。

一見、契丹人を主人公に据えて、遼と宋、それに金という三国鼎立の歴史を描いているように見えるが、極端に漢人の活躍ぶりや、西域に住む漢人の「重要な役割」

を謳歌しようとしているのが、最大の目的のようである。

16.『邱処机』、薛宗正撰文、范積瑞絵画、2006年12月
物語のあらすじ:

道教は「我が国の土着の宗教」である。邱処机(1148-1227)は道教の全真派の指導者で、モンゴルのチンギス・ハーンに召集されて、今日の山東省からモンゴル高原を通って、西域の至るところを旅した。彼は途中で各民族の風習について記録し、チンギス・ハーンに漢地支配の方策を提示した(図 29)。その行動を記録した『長春真人西遊記』は中央アジアに関する重要な地理学の著作である。

「我が国」の地理学的な著作を紹介し、チンギス・ハーンも「我が国の知識人」のアドバイスを受けていた、と暗示している。



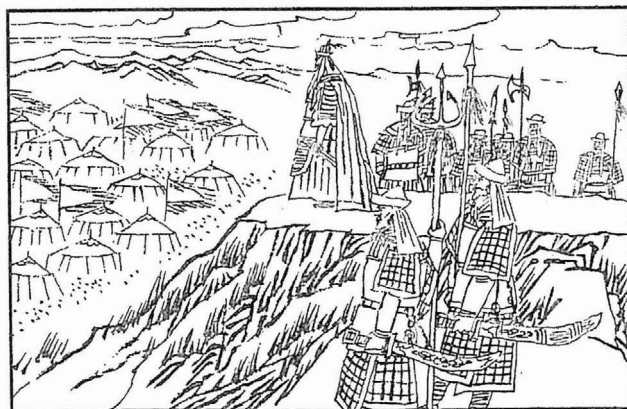
87 自此以后,成吉思汗垂询的问题发生了重大变化,开始由宗教变为世俗。邱处机以戒杀、安民等近于儒学的全真派教义解答了怎样安定汉地统治的问题,令成吉思汗非常满意。

図 29: チンギス・ハーンに満足の答えを示す邱処机

17.『陳誠』、薛宗正撰文、李冬絵画、2006年5月
物語のあらすじ:

陳誠(1363-1457)は「明代初期の著名な外交家」だ。当時、明朝は中央アジアのトルコ化したモンゴル人ティムールによる遠征の脅威にさらされていた(図 30)。陳誠は明朝の使者としてティムール朝に出向いて、平和関係を結んだ(図 31)。明朝はハミあたりまでを実行支配していた。

明軍と対峙していたモンゴル軍などを醜悪かつ凶暴な姿にし、文人の陳誠らの行動を典雅な姿勢にしている。



12 1395 年, 明朝派遣使臣傅安、郭驥前往结好, 被帖木儿拘留。1404 年帖木儿率兵 20 万, 备 7 年粮, 发师撒马尔罕, 远征明朝。

図 30: 明朝遠征を目指すティムール



76 帖木儿汗国是突厥语化的蒙古后裔所建的伊斯兰汗国。帖木儿汗在世时期, 与明朝本来互相敌对, 通过陈诚的出使, 化解了双方的关系。陈诚成功地完成了和平出使任务。

図 31: 陳誠の出使により、ティムールとの間で平和関係が結ばれた

2.2 解釈が難しいジュンガル・ハーン国と清朝時代
この部分は計 18 冊ある。

1.『咱雅班第達』、吐娜撰文、黄大連絵画、2008年9月
物語のあらすじ:

ザヤパンディダことナムハイジャムソの伝記を描いている。彼は 1599 年に遊牧する西モンゴル(図 32)のホシュート部の名家に生まれ、時は「国内においては満洲貴族が東北で勃興し、国際的には



41 由于西蒙古人以游牧为生,随季节变化而迁移,他们一生一世都居住在可以搬迁、保暖的毡房。

図 32: 游牧生活を送る西モンゴル



62 咱雅班第达生活的年代,国内恰逢东北地区的满洲贵族势力崛起,影响着蒙古各部;强邻沙皇俄国不断使用武力扩张和政治诱骗等手段企图使蒙古各部臣服。

図 33: 満洲人の勃興と帝政ロシアの侵略にさらされたモンゴル各部

帝政ロシアモンゴル各部への影響を強めていた」頃だという(図 33)。ザヤパンディダはチベットのラサに留学してチベット仏教をモンゴル各部に伝えたが、それは「封建的な王公たち」が人民を支配する道具でもあった。ザヤパンディダは知識を用いてモンゴル各部間の対立を和解させ、独特のモンゴル文字を創成して、1662 年に亡くなるまで活躍した。

ジュンガル・ハーン国やモンゴル高原の各部、それに新興の満洲人の清朝について述べる時など、すべて「国内」や「我が国」としている。また、モンゴル社会を「封建的」とし、暗に「後進的」だと言わんとしている。

2.『巴圖爾琿台吉』、吐娜撰文、賀軍絵画、2007年12月

物語のあらすじ:

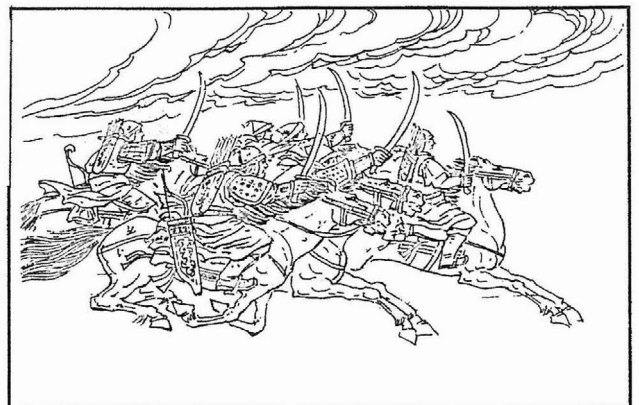
ジュンガル・ハーン国の指導者バートル・ホンタイジの治世中は満洲人が東から強くなり、ロシア人が西から中央アジア征服をはじめていた時代である。バートル・ホンタイジはモンゴル高原のハルハ部との関係を改善し、ロシアの侵略にも抵抗した(図 34、35)。「我が国の各民族の人民がロシアの侵略を撃退した事績は素晴らしい」。

西モンゴルのオイラート各部が清朝による併合にも抵抗していた歴史には触れず、ひたすら「モンゴルも我が国の各民族の一つ」だという点ばかりが強調されている。



82 他们凭借要塞的军事力量,强征当地人民的实物税,胁迫他们屈服沙皇的统治,同时进行武装移民,以巩固和扩大侵占的地域。

図 34: モンゴル人たちを帝政ロシアに服従させようとする風景



94 巴图尔琿台吉及其后继者维护祖国统一、反抗沙俄扩张的英雄业绩,在我国各族人民反抗外敌入侵的斗争史上写下了光辉的一页。

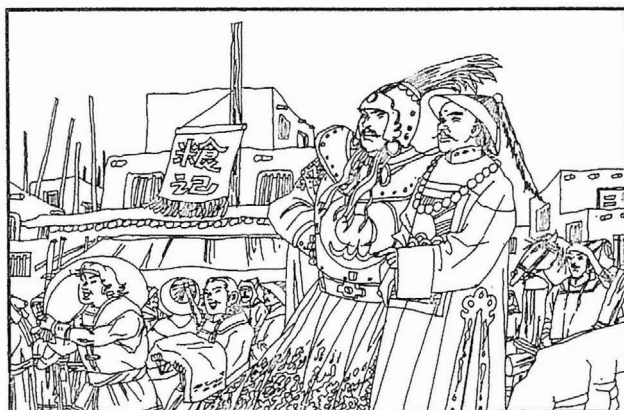
図 35: 祖国の統一と帝国主義の侵略撃破に貢献したモンゴル

3. 『吐爾扈特蒙古東歸』、奥其爾巴特撰文、楊世新絵画、2006年5月

物語のあらすじ:

新疆は古くは西域と呼ばれた。13世紀からはモンゴル人の居住地にもなった。西モンゴルの一つ、トルグート部は1629年に放牧地が狭くなったために、中央アジアのボルガ河下流域に移った。しかし、東侵してきたロシアは彼らをロシア正教に改宗させようとしたり、他の民族との戦争に動員したりして、過酷な生活を強いられた。そこで、耐えかねたトルグート人たちは1771年1月5日についてロシアの圧政から脱出して「太陽が昇る方向にある祖国」を目指した。途中、ロシアなどとの戦いで10万人もの犠牲者を出して帰ってきたトルグート人を乾隆帝の清朝は熱烈に歓迎した(図36)。

これはいわば、新疆に住むモンゴル人たちが古くから祖国を熱愛し、帝政ロシアに抵抗したというフィクションの焼き直しである。トルグート人は同胞のジュンガル・ハーン国のモンゴル人たちが清朝の大量虐殺に遭い、その仇を取るために遠征してきた性質には触れていない。



92 土尔扈特人民受到清政府的热烈欢迎。乾隆皇帝命令政府负责接待安置,发放衣食,拨给牧场和耕地,又拨库银20万两,购买物资进行接济。

図36: 祖国に帰還したトルグート人を清朝政府は熱烈に歓迎した

4. 『清代伊犁維吾爾人』、吐娜撰文、劉增祺絵画、2006年5月

物語のあらすじ:

「新中国」が成立する前のウイグル族はタランチ人と呼ばれていた。17世紀のジュンガル・ハーン時代の彼らは「封建的なモンゴル人」の奴隷だった(図37)。タランチとは「耕作者」を意味する。彼らは新疆各地から移住させられて、イリ溪谷に住みついた。1871年5月に帝政ロシアが侵略してきた時にウイグル人は抵抗し、勇敢に戦った。しかし、1881年2月に結ばれた『イリ条約』により、「中国」は7万平方キロの領土を失い、多数のタランチ人がロシアに拉致された。解放後、党と政府は彼らの意思を尊重して、ウイグル民族として認定した(図38)。

これはウイグル人の歴史を愛国主義というラインで再構成したものである。とくに「中国」のためにロシアと戦ったウイグル人の事績が褒められている。



7 维吾尔人每年秋后要向准噶尔统治者缴纳贡赋,服各种劳役,社会地位低下。其中被俘后隶属于封建主个人的地位相当于奴隶,被迫迁移的为农奴。

図37: モンゴル人に奴隷あつかいされていたウイグル人

5. 『香妃』、紀大椿撰文、黄大連絵画、2007年12月

物語のあらすじ:

カシュガルに「アパク・ホージャの墓地」がある。ここに香妃が眠っているという伝説がある。香妃とは、乾隆帝のただ一人のウイグル人の妃だった。彼女はカシュガルのイスラーム指導者ホージャ家の娘だったらしいが、詳しい生活は分らない。たぶん、『清史稿』に登場する容妃のことだろう(図39)。



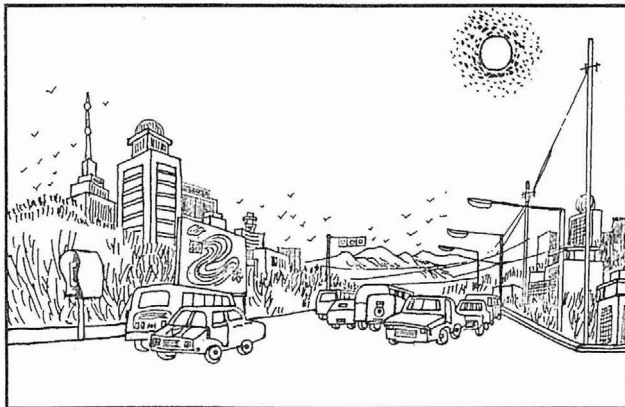
94 新疆解放后,党和人民政府根据语言、风俗及宗教特征,对塔兰奇进行民族识别,将塔兰奇认定为维吾尔族。

図38: 中国共産党と政府はウイグル人の風俗習慣を尊重した



93 作为历史人物的容妃,是乾隆皇帝众多妃子中的一员,史实记载十分清楚,不容歪曲和“戏说”。

図 39: 乾隆帝のウイグル人妃については諸説がある



94 世代受压迫、被剥削的锡伯族人民翻身做了国家的主人,从此进入了社会主义社会,开始了新的生活。

図 40: 社会主義制度の下で、国家の主人公となったシベ族



70 1806年3月,图伯特因功被清政府授命派往西藏向藏传佛教寺院发放布施(称“熬茶”),于1807年10月返回锡伯营。

図 41: 清朝政府の命令でチベットに巡視するトゥベト

も編纂した(図 42)。

松筠の多才を示すと同時に、チベットを奴隷社会だとするなど、発展段階論に基づいて、少数民族を立ち遅れた人々だとしている。

この絵本は香妃が実在したという前提で、さまざまな伝説を紹介しながら、カシュガルของホージャ家の対清朝反乱を悪だと決めつけ、清朝の中央政府による鎮圧行為を擁護している。

6.『錫伯族西遷』、佟克力撰文、王晓玲絵画、2006年5月 物語のあらすじ:

新疆には豊かな草原が広がり、「古くから我が国の遊牧民諸部族」が生活してきた。17世紀末にジュンガルの「モンゴル人貴族」が清朝に対して反乱を起こした。清朝は「祖国の統一」を図るために鎮圧し、勝利を収めた。その後、「祖国」の辺境を守る目的で1764年から東北の盛京からシベ族をイリへ移住させた。彼らはモンゴル高原を通して新疆に到着して駐屯した。それ以降、新疆の反動的な人たちの反乱を鎮圧し、ロシアの侵略者たちを撃退した。彼らの子孫は今や国家の主人公となり、社会主義社会で幸せな生活を送っている(図 40)。

清朝とはまったく別の国家だったジュンガル・ハーン国の存在を無視し、ハーン国のモンゴル人たちを最初から「我が国の遊牧民」だと決めつけている。清朝によるモンゴル併合と鎮圧を称賛するために、清朝の兵士たちを勇ましく描き、モンゴル兵を不格好に仕立てている。

7.『図伯特』、佟克力撰文、曾多源絵画、2008年9月 物語のあらすじ:

1755年に盛京こと今日の沈陽市に一人の男の子が生まれた。シベ族のトゥベトだ。彼は10歳の時にみんなと一緒に新疆のイリへ駐屯してきた。その後は苦学して軍の指導者になっていき、シベ族の駐屯軍のリーダーになった。イリ河の治水工事を進め、辺境の安定に貢献した。1806年3月にはその功績により、チベットへの巡礼も許可された(図 41)。

特に大きな軍功を立てたわけではないが、「祖国の辺境建設」に力を尽くした功臣の一生を淡々と描いている。

8.『伊犁將軍松筠』、紀大椿撰文、楊世新絵画、2008年9月 物語のあらすじ:

松筠はモンゴル正蘭旗の出身で、クーロン弁事大臣やチベットに赴任する駐藏大臣などを経てイリ(伊犁)將軍のポストに長くつき、祖国の辺境経営に貢献した。彼はウイグル人の生活を改善し、西域の地理に関する書物

9.『清代新疆察哈爾宮』、吐娜撰文、倪澤玄絵画、2006年5月
物語のあらすじ:

モンゴルのチャハル部は清朝の征服にもっとも激しく抵抗した部族だ。しかし、征服された後は清朝に忠実でありつづけた。1762 年あたりから、チャハル・モンゴル人は二度にわたって徴収されて新疆への駐屯を命じられた(図 43)。彼らは新疆についてから、天山南北を転戦し、各地の反乱をおさめ中央アジアやロシアからの侵略者たちを撃破した(図 44)。チャハル・モンゴル人は「祖国の西北辺境」を守るのに大きく貢献した。

清朝の駐屯軍であるチャハル・モンゴル人を美しく、反乱者や侵略者を卑猥に描いている。



64 徐松将许多新资料、新情况充实到书稿中,字数增加一倍还多。松筠很满意 将书名改为《伊犁总统事略》。

図 42: イリに関する地理学の著作を編集する



9 1762 年 5 月 9 日,1000 多名察哈尔官兵汇集在察哈尔八旗中心,他们背负战箭,腰挎战刀,骑着战马,携带妻儿,告别家乡,陆陆续续出发了。

図 43: 新疆を目指すチャハル・モンゴル



78 1865 年,中亚地区的浩罕汗国利用清政府忙于镇压内地各族人民起义、无力西顾之际,乘机派将领阿古柏带匪徒侵入南疆。

図 44: 中央アジアのコーカンド・ハーン国の侵略者

10.『清代新疆厄魯特宮』、吐娜撰文、張永和絵画、2006年5月
物語のあらすじ:

清朝政府が新疆を統一してから、1762 年に天山南北を管轄する軍政府を設置し、「中央政府による



1 清朝政府统一新疆以后,1762 年建立了统辖天山南北两路的军政合一的军府制,行使中央政府边疆地区的国家主权。

図 45: 清朝政府は新疆を統一し、国家主権を行使した

る辺境への国家主権」を行使した(図 45)。そうしたなか、ジュンガル・ハーン国のモンゴル人の後裔であるウールト(厄魯特)の人たちも清軍として各地を転戦し、ウイグル人の反乱を抑え、帝政ロシアの侵略を打ち破った。新疆の各民族の人民はロシアの利益誘導にも動じずに、いつも「祖国」を愛した(図 46)。ウールト・モンゴル人たちは「祖国の辺境建設」に大きく貢献した(図 47)。

ウールト・モンゴル人の「功績」を語りながら、帝政ロシアに「国土」が



81 沙俄侵略軍采取恫吓誘騙等種種手段，強迫伊犁各族人民歸順和屈服，伊犁各族人民熱愛祖國，寧死不屈，使侵略者一籌莫展。

図 46: イリのウイグル人は祖國を愛し、ロシアに屈服しなかった



94 新中国成立後，厄魯特蒙古後裔與新疆各族人民一起，為祖國邊疆的建設事業貢獻著自己的力量。

図 47: 祖國の辺境建設に貢献したウールト・モンゴル人



10 当時，伊犁將軍管轄的地域比現在要大很多，巴爾喀什湖以東以南的幾十萬平方公里領地都屬中國的領土範圍。

図 48: バルハシ湖以東もかつては中国の領土だった



13 伊犁惠遠城在城建布局上，是仿北京的形式建立的，所以历史上有“小北京”之称，当时成为新疆北部最繁华的都市。

図 49: イリの小北京城

占領されたという屈辱を大々的に強調し、「祖國」が蒙った被害ぶりを前面に押し出している。

11. 『伊犁索倫營』、佟克力撰文、黃大連絵画、2006年12月物語のあらすじ:

ソロン（索倫）とはもともと黒龍江省あたりに住む「土着民族」に対する呼称だ。彼らは勇猛だったことから、ソロン軍營を形成し、1763 年から新疆に派遣されて、「祖國の辺境防衛」にあたった。当時、バルハシ湖以東の地域もすべて「中国の領土」だった（図 48）。ソロン營の人たちは新疆の天山南北で起こったウイグル人の反亂を平定し、ロシアの侵略者たちと戦った。

ソロンの後裔は今日の新疆に住むシベ族やダウール族だとして、現在との繋がりを示している。

12. 『伊犁滿營』、佟克力撰文、倪澤玄、2006年12月物語のあらすじ:

1755 年と 1759 年に清朝が「新疆を統一」してから、満洲人を派遣してイリに駐屯させた。彼らがイリで建てた惠遠城は北京を真似して造られたものである（図 49）。ロシアの侵略者たちがイリの各民族の人民を植民地に陥れた際にも、滿營の兵士たちは勇敢に抵抗した。辛亥革命の際に保守的な満人は清朝の皇帝のために忠誠を尽くそうとしたが、今や歴史の表舞台から退いた。

ウイグル人の反亂と帝政ロシアの侵略、という「二大悪」を軸にしてストーリーを織りなしている。

13. 『伊犁將軍明瑞』、齊清順撰文、賀軍絵画、2008年9月物語のあらすじ:

清朝の初代イリ將軍で、乾隆帝の甥、明瑞（?-1768）の生涯の「貢献」を描いている。モンゴルのジュンガル・ハーン国の「貴族の反亂」を鎮圧して新疆

を「祖国」に編入させたことや（図 50）、ウイグル人の反乱を平定した事績が並べられている。

明瑞は最後にビルマとの国境地帯に住む人たちの反乱を抑えようとして戦死しているので、これを「祖国の西南辺境の保衛戦」だとしている。

14. 『喀爾莽阿』、佟克力撰文、曾多源絵画、2007年12月 物語のあらすじ:

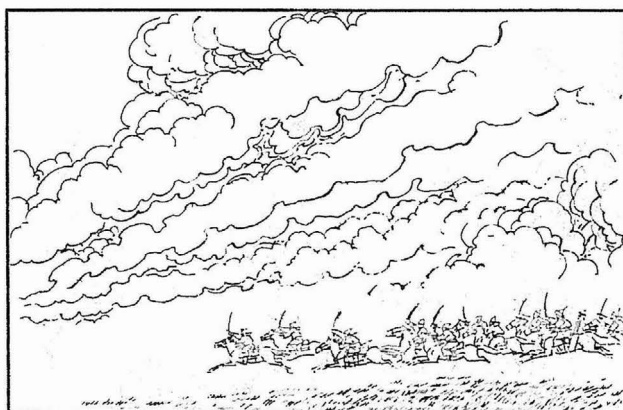
清代のイリに駐屯するシベ營の指導者、カラマンガ（1816-1882）は長期にわたって大清帝国の領土を守りぬいたが（図 51）、最後は不運にも刺客に暗殺されて殉職した。

カラマンガを「民族の英雄」だとして称賛し、今日においても諸民族に愛されつづけていると紹介している。

15. 『葉爾羌保衛戦』、齊清順撰文、李虎林絵画、2008年9月 物語のあらすじ:

19 世紀 30 年代から中国は西欧資本主義列強の侵略を受け、半植民地・半封建社会に入った（図 52）。西からは帝政ロシアが「中国のバルハシ湖以東の領土」を占領した。そうしたなか、1830 年には中央アジアのフェルガーナ盆地に住むウズベク系のコーカンド・ハーン国も新疆南部のヤルカンド（葉爾羌）に侵入した（図 53）。ヤルカンドの各民族は「祖国」を愛し、保衛戦に勝った。

帝国主義の侵略を誇大に強調しながら、ウズベク系の人々が何故、新疆に入ったかについての説明がない。あたかもウズベク人も「西欧列強」のように扱われている。



5 1755 年秋、进入伊犁の清朝军队主力撤出伊犁。原卫拉特蒙古解特部台吉、已投诚清朝的阿睦尔撒纳发动叛乱，天山北部重又陷入战乱之中。

図 50: モンゴルの反乱で、天山南北は動乱に陥った



63 喀尔莽阿拿出清政府的任命书，义正词严地回答：“大清国皇帝委托我管理伊犁事宜，再说伊犁从来就是大清国的领土，所以我有理由管理伊犁！”

図 51: イリは我が大清の領土だ、と主張する大臣



1 19 世紀 30 年代、国際国内形势正发生重大变化，中国即将进入备受西方资本主义列强侵略和欺侮的半殖民地半封建的近代社会。

図 52: 帝国主義に虐められて、半植民地・半封建社会に入った中国



37 侵犯叶尔羌的浩罕军队万余人，首先向新城发动了攻击，妄图一举夺取该城后再攻老城。

図 53: ヤルカンドに侵略してきたウズベク人

16. 『一炮成功』、買玉華撰文、許劍絵画、2008年9月 物語のあらすじ:

1864 年に新疆のウイグル人農民は搾取に耐えられなくなって蜂起したが、まもなく蜂起軍の指揮権



5 但是不久,起义的领导权就落入当地宗教上层人士热西丁和卓手中。他自立为汗,煽动“圣战”,制造民族仇杀,改变了农民起义的性质。

図 54: 蜂起軍は聖戦軍に変わり、民族間に恨みの種をまいた



94 2002年6月,“一炮成功”被命名为市级爱国主义国防教育基地。现在,“一炮成功”已成为水磨沟风景名胜区的又一道靓丽风景线。

図 55: 愛国主義基地に立つ左宗棠碑



81 英勇机智的塔吉克人民赶跑了侵略者,保卫了祖国领土的完整,又一次取得了斗争的胜利。

図 56: 祖国の領土を守ったタジク人

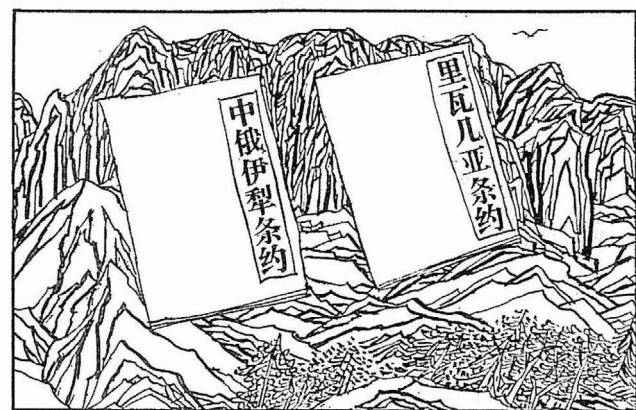
は「搾取階級」に握られ、蜂起の性質も変わった(図 54)。その後、中央アジアのコーカンド・ハーン国の封建的な領袖やオスマン帝国、それにイギリス帝国とロシア帝国の干渉を受けて、蜂起軍は諸民族に苦難をもたらすようになった。清朝政府は左宗棠を派遣して鎮圧し、大砲を打ち鳴らして平定した。「祖国の神聖な領土」を守った左宗棠の功績を称えるため、中共ウルムチ市委員会は2001年に記念碑を建て、愛国主義基地と定めた(図 55)。

清朝末期の西北ムスリムの反乱を鎮圧した中国人左宗棠の功績を称賛し、彼が各地で働いた大量虐殺には触れていない。ウイグル人や中央アジアのウズベク人を露骨に醜く描いている。

17.『塔吉克雄鹰庫爾察克』、阿斯卡爾・居努斯撰文、尤山絵画、2007年12月

物語のあらすじ:

クルチャクは新疆南部のタシクルガンに住むタジク族の英雄だった。1830年代に中央アジアのコーカンド・ハーン国のウズベク人たちが新疆南部に「侵略」し、犯罪を繰り返した。英雄的なタジク人民は勇敢に抵抗し、「祖国の領土を守った」(図 56)。



88 两约相比,中国以增加400万卢布的代价争回了崇厚原约中被沙俄强行割去的乌宗岛山及伊犁南境特克斯河一带的领土。

図 57:『伊犁条約』は結ばれたが、ロシアは中国の領土を奪い取った

ウズベク人を「侵略者」だと仕立てあげ、新疆でトルコ系諸民族が古くから生活してきたことには目をつぶっている。他者を否定して、ひたすら中国人の優越性を強調している。

18.『曾紀澤』、買玉華撰文、李冬絵画、2008年9月

物語のあらすじ:

曾紀澤(1839-1890)は清末の重臣、曾国藩の長男で、清朝の有名な外交官だった。左宗棠らが新疆のウイグル人などムスリムの反乱を平定し、ウズベク人の「侵略」を撃退していたのと時を同じくして、ロシアの都サンクトペテルブルクでは外交交渉がおこなわれていた。曾紀澤はみごとな手腕を発揮して『清露伊犁条約』を結び、「祖国の

領土」がロシアに占領されないよう貢献した（図 57）。

清朝末期に台頭してきた漢人有力者たちの「活躍」を賛美し、満洲人の清朝が少しずつ中国人に権力を握られて中国化していくプロセスを表している。

2.3 「解放」させられるプロセスと共産党の「正義」

合計 23 冊の絵本で、共産党による新疆浸透のプロセスを織りなしている。

1. 『辛亥革命在伊犁』、佟克力撰文、姜浩林絵画、2007年12月

物語のあらすじ：
1884 年に新疆省が建立されて以来、封建的な支配が強いられたために、各民族の人民は疲弊しきっていた。くわえてロシアとイギリスによる「侵略」も目に余るものだった。そこで、孫文の革命的な思想の影響を受けた革命党が 1912 年 1 月 7 日に「起義」し、新疆における清朝統治が幕を閉じた（図 58）。

孫文の革命を正義と位置づけるために、中国は内部においては「清朝の腐敗と無能」、外的には帝国の侵略が変革を必要とした、という歴史観である。

2. 『抗俄英雄蘇皮爾格』、馬合木提・阿布都外力撰文、肖天絵画、2007年12月

物語のあらすじ：
1912 年 6 月 23 日に、新疆南部のホータン地域において、ウイグル人農民たちはロシアの「侵略」に抵抗する運動を起こした。その指導者の名はソビルガで、辛亥革命の影響を受けていた。しかし、袁世凱政権は外国の圧力に屈したために、反ロシアの運動は失敗した（図 59）。

ロシア人の進出とウズベク人たちによるホータンへの移住とともに「侵略」だと解釈し、「智慧に富んだ先進的な漢人」が「素朴なウイグル人」を指導する、というストーリーである。中国の少数民族地域における革命運動は、漢人の指導があつてはじめて成功する、という官制史観の焼き直しである。

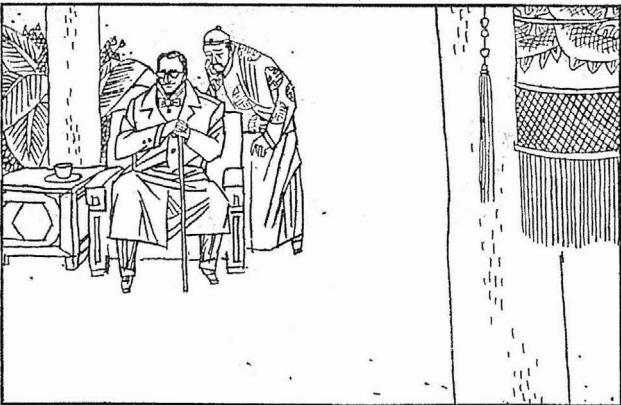
3. 『玉山巴依』、吐娜撰文、肖天絵画、2008年9月

物語のあらすじ：
新疆のウイグル人たちは商才に優れている。南新疆アトウシ生まれのユサンバイは地元屈指の金持ちだった。この一家は逸早く近代の工業化に目覚め、ドイツやロシアから近代的な技術を導入して製革工場をイリに建てた（図 60）。1951 年になると、ユサンバイ家は新疆でもっとも裕福なウイグル人となり、抗日戦争にも寄付をし、「祖国」の工業化に貢献した。



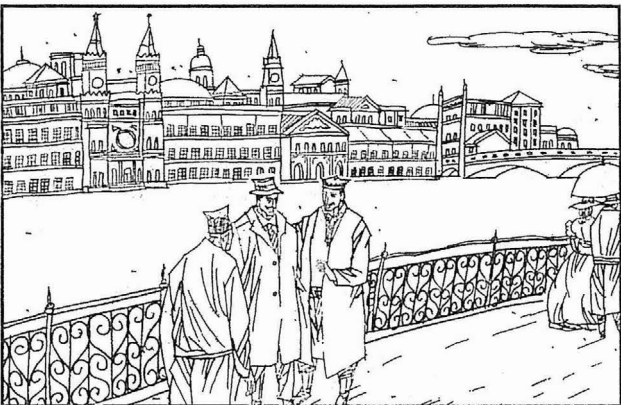
2 1912 年 1 月 7 日、受辛亥革命影响、伊犁爆发革命党人起义，推翻了清朝在伊犁的统治。

図 58: 清朝の支配を打倒したイリの革命党員たち



82 这年 7 月，孙中山领导的“二次革命”爆发。袁世凯为了镇压革命，寻求帝国主义的支持，接受了沙俄的要求。

図 59: 帝政ロシアの支援を得ようとする袁世凱



75 1925 年，玉山巴依商行将皮革厂的产品及其他货物远销苏联，并物色苏联技师以指导厂的生产。

図 60: ソ連から技術を導入するウイグル人



75 イスハク伯克不仅能征善战，还十分注意维护祖国统一和民族团结，他常说：“我们军队的最大特点是由各民族组成的，维护军队的团结就是维护民族团结。”

図 61: 祖国の統一と民族間の団結を呼びかける

「祖国」への「貢献」を描こうとしても、ウイグル人たちは中国内地よりも中央アジア各国、ひいてはドイツやロシアとの交流をより重視してきた側面が読みとれよう。

4. 『伊斯哈伯克・穆努諾夫』、李世勳撰文、劉芸中絵画、2008年9月

物語のあらすじ:

イリの伊寧市に一つの記念碑があり、そこには「祖国の統一」と「民族の解放」のために亡くなった烈士たちの名が刻まれている。イサハクベク・ムヌノフは新疆のキルギス人で、ソ連に留学し、国民党の反動的な支配に反対する「三区革命」軍の最高司令官だった。彼は民族主義者たちが出した過激なスローガンに反対し、「祖国の解放」に憧れていた（図 61）。1949 年 8 月 27 日に、ソ連経由で北京に飛ぶ途中に飛行機墜落事故で亡くなった。

た。

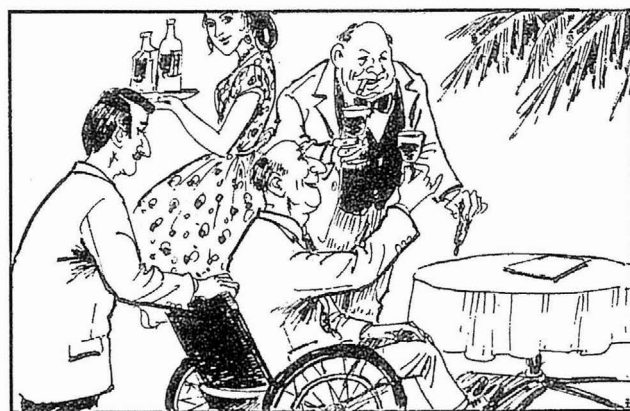
1933 年に南新疆にあった東トルキスタン・イスラーム共和国を「民族分裂主義者集団」だとし、三区革命も民族の自決を目指していた性質などを無視している。

5. 『新疆三区革命』、芮夢得 田茂秋撰文、姜浩林絵画、2006年12月

物語のあらすじ:

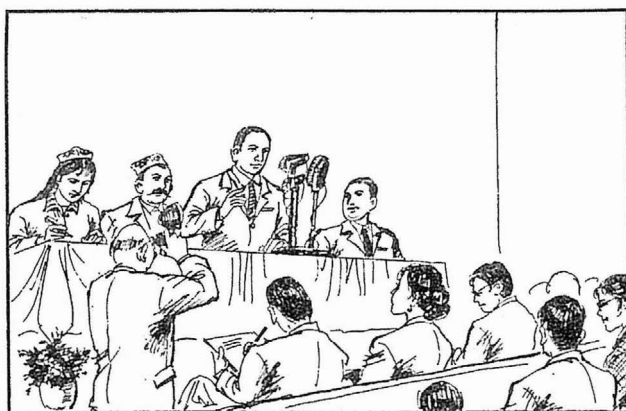
1944 年にイリとタルバガタイ、それにアルタイの三地域で起こった三区革命は「反国民党」の運動である。盛世財という軍閥は親ソ連政策を中止し、各民族を抑圧していた。カザフ族は蜂起したものの、反漢のスローガンを掲げていたので、その性質は反革命的だ。三区革命期に成立した東トルキスタン共和国も漢人を虐殺するなど、反革命活動をおこなった。その後、ソ連は自国の利益のために対日参戦し、中国は「外モンゴルの領土」を失った（図 62）。しかし、新疆人民は「祖国を分裂」させる行為に反対し、中国に残った（図 63）。

全篇にわたって、ウイグル人やカザフ族の民族自決運動を否定的に描き、中国による新疆占領をむりやりに正当化しようとしている。国際関係についても、中国中心の視点が貫かれている。漢族は善で、ウイグル人と少数民族は立ち遅れているか、悪だとしている。



31 为促使苏联进攻日本侵华关东军，英美两国牺牲中国利益满足苏联的无理要求：日本从沙皇俄国手中夺走的在华权益交还苏联，维持外蒙古“现状”。

図 62: 中国の利益を犠牲にする諸国



82 9月25日，赛福鼎在记者招待会上说，三区各族人民接受中国共产党的领导，维护祖国统一，反对国内外反动势力分裂祖国统一的图谋。

図 63: 三区革命の人民は共産党の指導を受け入れ、祖国の統一を守り、分裂に反対する

6.『達列力汗・蘇古爾巴也夫』、李世勲撰文、高持民絵画、2008年9月

物語のあらすじ:

新疆三区革命時のアルタイ地域カザフ族の指導者、ダリルカン・ソグルバイエフの話である。彼はアルタイに生まれ、子供のころに「ロシアに唆されて独立した外モンゴルの侵略」を受けた。大きくなってからは国民党の反動派と戦い、抗日戦争の意義についてアルタイで宣伝した(図64)。三区革命の指導者となっても、「新疆は中国の一部」だと信じていた。不運にも飛行機墜落事故で亡くなった。

モンゴル高原が清朝に対して独立を実現させた歴史を帝政ロシアによる陰謀だとし、モンゴル人の歴史を歪曲している。また、日中戦争はアルタイ地域のカザフ族にほとんど影響を与えていないし、アルタイのカザフ人もソ連との関係が強かったにもかかわらず、まったく逆のイメージ、中国との「友情」を創造している。中国側からすれば、あってほしかったカザフ史である。

7.『俞秀松』、張軍撰文、李冬絵画、2007年12月

物語のあらすじ:

俞秀松は中国共産党員で、少年時代から日本製品の不買運動を呼び掛ける愛国者だった。ソ連留学を経て、1935年にスターリンに派遣されて新疆の盛世財のところで働き、日本とイギリスの侵入を防いだ(図65)。彼は盛世財の妹と結婚し、共産党の民族政策を広げた。のちに盛世財やスターリンの鼻息がかかった共産党の指導者王明らによって粛清された。

「英雄的で、高潔な共産党員」像を描いたものである。

8.『戦闘社』、高啓栄撰文、姜浩林絵画、2008年9月

物語のあらすじ:

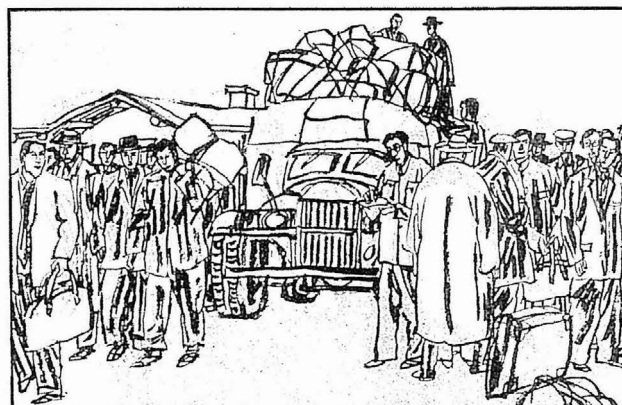
1935年にソ連は25名の中国共産党員を新疆に派遣し、抗日戦争に備えた。彼らはのちに「革命を裏切った」盛世財によって投獄されたり、処刑されたりした。しかし、生き残った人たちは共産主義の信念を守りつづけ、戦闘社という組織を造って軍閥と戦った(図66)。ウイグル人らの三区革命をパン・トルコ主義の「悪い影響」から守り、「正しい方向」、すなわち中国にとどまる方向に導いた。

中国共産党はすべてが正しく、国民党もウイグル人などの少数民族も間違いを犯してばかりだ、という筋で書いている。



16 達列力汗经常深入牧区向广大牧民宣传各民族团结一致、爱国抗日、反对日本帝国主义侵略的道理。

図 64: カザフ人遊牧民に民族団結と抗日を宣伝する



55 1935年6月,应盛世才要求,联共派俞秀松等25人到新疆,帮助盛世才建立一个稳定的亲苏进步政权,防止日、英帝国主义势力进入新疆。

図 65: 新疆に入った共産党員たち。彼らは日本とイギリスの侵略を防いだ



67 1947年5月,蒋介石任命泛突厥主义分子麦斯武德为新疆省主席。新疆民主革命党乌鲁木齐区委会发动市民游行抗议。

図 66: 蒋介石が任命したパン・トルコ主義者に反対するウイグル人たち



24 3月底,马步芳通电河西走廊各路驻军,命令部队加紧追击和堵截,防止西路军余部从安西进入新疆。

図 67: 軍閥馬歩芳の騎馬兵は西路軍の新疆入りを阻止しようとした



29 开始学习前,陈云动员大家:“日本侵略者有飞机、大炮、汽车、装甲车,我们也需要用飞机、大炮、汽车、装甲车来对付侵略者。现在没有,将来总会有的,等到了再学就晚了。”

図 68: 飛行機と大砲、装甲車操縦の技術を学び、抗日に備えよう



7 经过慎重考虑,6月19日、7月15日,陈云先后两次致电党中央,建议利用中共同盛世才的统战关系,安排总支队官兵在新疆学习装甲车、火炮、坦克和飞机的操作。

図 69: 中共のために技術を学ぶ

9.『西路軍左支隊進新疆』、張軍撰文、賀軍絵画、2006年12月

物語のあらすじ:

中国共産党の紅軍は1936年10月に「長征」を「成功」させて、西北部の甘肅に着いた。翌1937年3月、モンゴル人民共和国經由でソ連との直接交流のルートを開通させるために、西路軍を新疆に派遣することになった。西路軍は青海省の軍閥馬歩芳の襲撃に遭いながら、生き残った数十人が新疆に辿り着いた(図67)。彼らは新疆で「人民に愛される新兵營」を形成した。

中国において、長いことタブーだった西路軍全滅の話英雄神話に造り直したものである。中共が「苦勞して新疆を占領した」歴史を創出しようとしている。

10.『新兵營』、蘇奎俊撰文 曾多源絵画、2006年12月

物語のあらすじ:

1937年5月に新疆に入った共産党西路軍の生き残りはソ連の意向で盛世財指揮下の新兵營に編入された。彼らは「共産党の素晴らしい伝統」を忘れずに訓練して先進的な技術を学び、抗日に活用した(図68)。彼らはまた規律もよく、ウイグル人からも称賛されていた。後に新疆人民に惜しまれながら、1940年に延安に帰還した。

国民党を不正な勢力だとして描き、正義は共産党側にある、という筋である。

11.『新疆航空隊』、熊坤静撰文、賀軍絵画、2007年12月

物語のあらすじ:

新疆に入った西路軍の生き残りは、国共合作期の政策にのっとり、盛世財も親ソ連政策を取っていたのを利用して最新の軍事技術、戦闘機の操縦をソ連人の教官から学んだ(図69)。彼らの一部は後に「革命を裏切った盛世財」に逮捕されて処刑されたが、多くは延安に帰り、また東北の抗日前線に行って参戦した。

国民党の盛世財側が寛大な政策で共産党員の公的な活動を許していた性質に触れずに、もっぱら共産党員たちが「正義」を求めて戦い続けたとする話を優先している。

12.『陳潭秋』、馬鎖成撰文、李冬絵画、2006年12月

物語のあらすじ:

1896年に湖北省に生まれた陳潭秋は中国共産党の「素晴らしい黨員」だ。彼は中共駐コミンテルン代表を経て1939年5月にモスクワに派遣されて新疆のウルムチに入った(図70)。西路軍の生き残りを指導し、盛世財を支えて抗日に「貢献」した。しかし、盛世財は「革命を裏切った」ために逮捕されて、1943年に処刑された。

いわゆる「革命のために命を捧げた烈士」の話である。

13.『鄧発』、高啓栄撰文、李虎林絵画、2006年12月

物語のあらすじ:

広東省生まれの鄧発は共産党の忠実な党员だった。青年の頃は香港で反イギリス帝国主義の運動に参加した。後にソ連に行き、1937年に新疆に入った。彼は軍閥盛世財の反革命的な本質を見抜いていた。抗日戦争後も革命活動に携わっていたが、飛行機墜落事故で1946年に死んだ。毛主席も彼を高く評価した(図71)。

14.『獄中童年』、謝敏撰文、李鴻絵画、2006年12月

物語あらすじ:

1947年7月11日に新疆のウルムチから「革命の根拠



54 1939年5月,陈潭秋奉命从莫斯科回延安,途经新疆乌鲁木齐,按照党的指示接替邓发任中国共产党驻新疆代表和八路军驻新疆办事处主任。

図70: 新疆の八路軍代表



94 4月18日,邓发等烈士的遗体被护送至延安。第二天党中央隆重举行追悼会,毛主席挥笔写下:“为人民而死,虽死犹生”。

図71:「党と人民のために殉死した英雄」を毛主席は褒め称えた



81 孩子们明白了,延安是毛主席居住的地方。八路军叔叔、伯伯们就从那里出发去前线打日本鬼子。他们向往延安。

図72: 日本人の鬼どもをやっつけよう、と子どもたちに教える

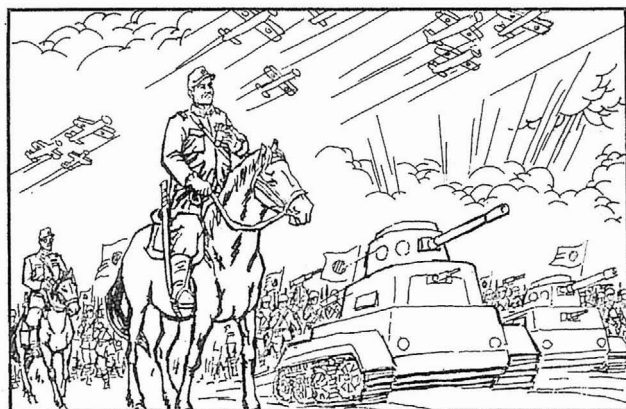
地延安」に来た23名の子供たちがいた。彼らは革命家の毛澤民(毛澤東の弟)や陳譚秋、張聞天らの子供たちだ。その父母らが「革命を裏切った盛世財」によって逮捕されていた頃に、子供たちも刑務所に閉じこめられ、非道の扱いを受けた。しかし、子供たちも「延安は毛主席が住むところで、八路軍は抗日の英雄だ」と知り、革命の信念を守り通した(図72)。共産党の粘り強い交渉により、釈放されて「温かい延安」に帰ったのである。

「反動的な国民党」は子供まで虐待した、と宣伝する内容である。新疆で革命活動をしたとされる共産党を英雄視した話だ。

15.『辺城女囚』、高啓栄撰文、孟陽絵画、2008年9月

物語のあらすじ:

日本帝国主義者が中国を侵略していた頃に(図73)、新疆のウルムチに八路軍の事務所があった。独ソ戦争が勃発した後、1942年になると、「革命を裏切った」盛世



4 这时,日本侵略者加紧扫荡中国共产党领导的敌后根据地,中国共产党及其领导的八路军、新四军遇到重重困难。

図73: 日本の侵略者の掃討作戦により、共産党の軍隊は苦境に立たされた



60 刘勉毫不畏惧,冲上去同胡国振厮打。大家指着胡国振骂:“你打八路军,就是汉奸卖国贼!”并齐声高喊:“打倒没奸卖国贼!”

図 74: 牢獄で戦う共産党員の妻たち



92 见面落座后,毛主席亲切地向旦华问这问那,就是没有一句问起自己的大弟弟毛泽民。明月当空,朱旦华突然发现毛主席的两眼已含满了泪水。

図 75: 毛澤東の弟も革命のために犠牲となった



4 新疆少数民族上层反动分子乌斯满、贾尼木汗同哈密专员尧乐博斯相勾结,也进山为匪,参加叛乱。

図 76: 反乱を起こした少数民族の上層分子

財は八路軍の代表たちとその家族を逮捕した。共産党員の妻たち（女囚）も革命を信じて、闘争を続けた（図 74）。

共産党員は本人だけでなく、その妻や子供たちも含めて、死を恐れずに戦った、というストーリーを織りなしている。

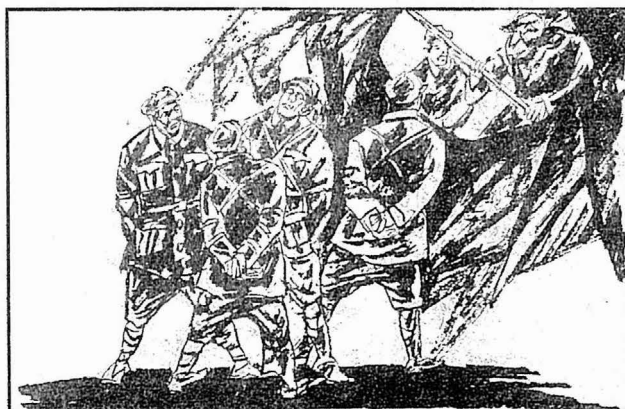
16.『百子回延安』、熊坤静撰文、万里明絵画、2008年9月物語のあらすじ:

「反革命の盛世財」によって抑留されていた八路軍の兵士とその家族たち100人は、1946年に釈放されて、新疆から蘭州や西安経由で「革命の根拠地延安」に戻った。途中、「反動的な国民党」に阻害されながらも、革命の信仰を曲げずに、「共産党員としての高潔な精神」を守り通した。この100人のなかには毛澤東の弟、毛澤民の妻と子供も含まれていた（図75）。

中国共産党党員の「素晴らしい人格」を具体的に表そうとしたものである。

17.『伊吾保衛戦』、石磊撰文、劉芸中絵画、2006年12月物語のあらすじ:

新疆に駐屯する国民党軍は1949年9月25日に共産党に帰順し、新疆は「平和的に解放」された。しかし、「一部の反動的な国民党軍」と「ごく少数の反動的な少数民族の上層階級」は一緒になって、1950年春に反乱を起こした（図 76）。人民解放軍の兵士も彼らに殺された（図 77）。しかたなく反撃した解放軍は「反乱分子」を全滅



24 最后,叛匪们把二班战士双手反剪绑住,推进贮粮用的地窖内,战士们大义凛然,高呼着“共产党万岁!毛主席万岁!”。都被叛匪用木棒活活打死。

図 77: 解放軍の兵士たちは殺される前に必ず「共産党万歳」、「毛主席万歳」と叫ぶ

させた。

中国共産党がよく取る手法であるが、共産党や中国政府は常に「耐えきれず、やむを得ず反撃した」、

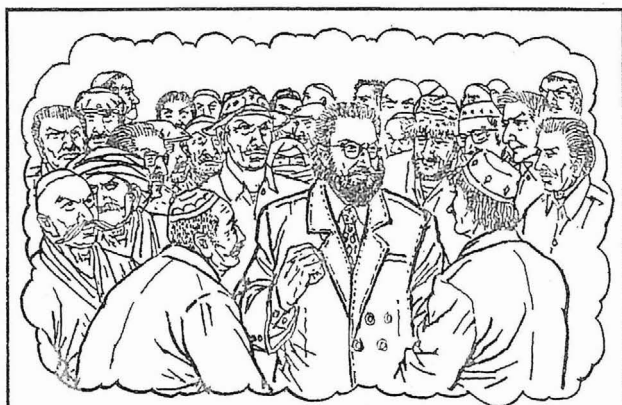
という視点で描いている。ウイグル人を醜悪に、共産黨員らを格好よく描いている。

18.『力群電台』、王棟撰文、劉增祺絵画、2006年12月

物語のあらすじ:

1949年秋、新中国が成立する前後に、アメリカ帝国主義は新疆のウイグル人やカザフ人の「反動的な上層階級」を煽動して、イスラーム共和国を造り、「我が国を分裂」させようとした(図78、79)。そこで、モスクワからイリに入った共産黨員の鄧力群は無線通信機を利用して三区革命側の情報を逐一、北京に打電した。情報を把握した党と政府は「反革命勢力の陰謀を粉碎」し、祖国を統一した。

「偉大な祖国の分裂」を謀るのは「帝国主義と一部の反動的な上層階級」だ、という共産党の見解を絵にしたものである。



6 在会谈中,苏方提出,根据可靠情报,美国正在纠集青海、宁夏、新疆三地反动势力,策划在新疆建立独立的“伊斯兰共和国”,妄图把新疆从中国分裂出去。

図 78: アメリカ帝国主義は中国の分裂を謀った



72 新疆和平解放后,隐藏在起义部队中的反动分子,勾结地方顽固分子乌斯满、贾尼木汗等人,在全疆各地烧杀抢掠,策划叛乱,企图阻止人民解放军进驻。

図 79: 反乱する少数民族の上層階級

19.『鉄流西進』、王春雅撰文、賀軍絵画、2008年9月

物語のあらすじ:

1949年秋に新疆が「平和的に解放」された後、「少数民族の反動的な上層階級と国民党の反動派」たちは反乱を起こした(図80)。反乱軍は人民を虐殺していたので、「耐えにたえた」人民解放軍は



5 乌斯满、贾尼木汗、尧乐博斯等新疆少数民族封建上层人士,在美国驻迪化副领事马克南的煽动下,密谋策划一场大规模的暴乱。

図 80: 反乱を企む少数民族の上層階級



94 人民解放军进军新疆的胜利,结束了历代剥削阶级的反动统治,粉碎了国内外敌对势力妄图把新疆从祖国怀抱中分裂出去的阴谋,揭开了新疆历史新的一页。

図 81: 人民解放軍は新疆を解放し、祖国を分裂させようとする陰謀を打ち砕いた

戦車部隊と騎馬兵を投入し、彼らを鎮圧して「新疆を解放」した（図 81）。それ以来、いかなる「祖国を分裂させようとする勢力」に対しても、断固たる措置を人民解放軍は取るようになった。

「正義」の人民解放軍の「断固たる措置」を謳歌している。

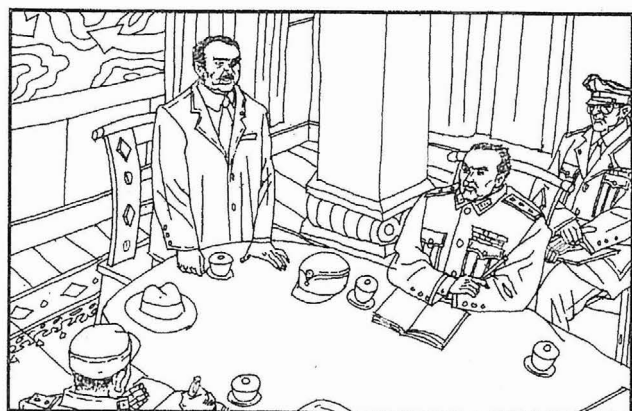
20. 『新疆和平解放』、王春雅撰文、楊世新絵画、2006年12月

物語のあらすじ:

新疆が1949年9月25日から26日にかけて、「平和的に解放」されるプロセスを描いている。ウイグル人（タタール人）のボルハンや国民党軍の陶峙岳司令官など親共産党派は「反動的な国民党軍将校」と「ごく少数の少数民族の上層階級」らの反対を押し切り、平和的な義挙を成功裏に起こした。

「古くから我が国の固有の領土である新疆」において、各民族が主人公となった（図 82）。各民族は「共産党万歳」、「毛主席万歳」を叫んで、「解放」を喜んだ。

ウイグル人らの地位を相対的に低くし、外来の中国人すなわち漢人をも新疆の主人公の一員とするために、「各民族」を強調している。



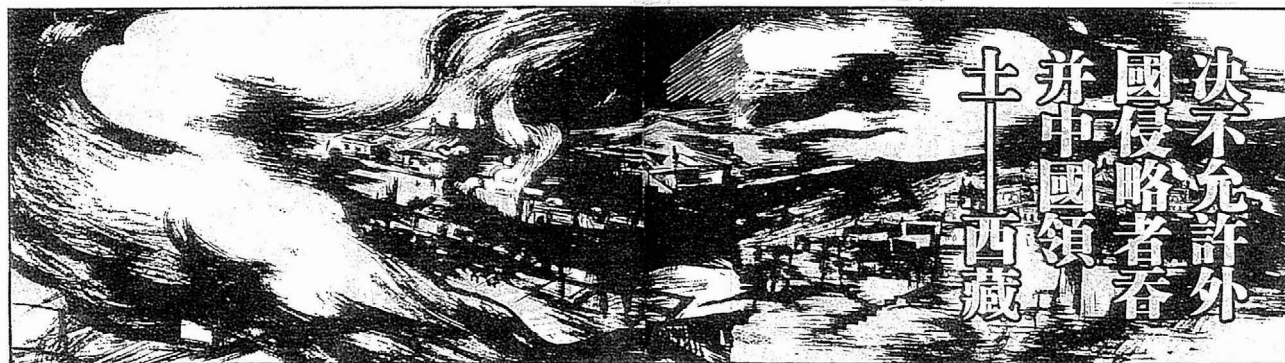
29 包尔汉指出,新疆自古以来就是中国领土的一部分,不允许任何人侵略和分裂它。并表明了自己的亲苏立场,暗示新疆要走和平的道路。

図 82: 新疆は古くから中国の領土だ、とウイグル人の幹部も話した

21. 『進軍藏北』、陳伍国撰文、万里明絵画、2007年12月

物語のあらすじ:

1949 年秋から、新疆に駐屯する人民解放軍は一部の騎馬兵を派遣してチベット北部のアーリ地域に入らせた。兵士たちはウイグル人とチベット人の支持を得て、「反動的なチベットの上層階級の陰謀」を打ち砕いて、祖国の領土の統一を守った（図 83）。



2 1949 年夏,正当人民解放军百万雄师横扫国民党残余势力时,在英帝国主义的策划下,西藏地方政府制造了“驱汉事件”,阴谋把西藏从祖国大家庭中分裂出去。

3 9月2日和7日,新华社、《人民日报》先后发表了《决不允许外国侵略者吞并中国领土——西藏》的社论和《中国人民一定解放西藏》的署名文章。

図 83: チベットで反漢運動が起こったので、中国は人民解放軍を投入した

中国共産党がチベットを「平和的に解放」した際におこなった北部の新疆からの作戦を描いている。人民に「支持」され、「反動的な上層階級」を殲滅するという発展段階論に立脚している。

22. 『楊拯陸』、謝敏撰文、尤山絵画、2008年9月

物語のあらすじ:

楊拯陸は「愛国的な抗日の英雄」楊虎城の娘だ。楊虎城は張学良とともに西安事変を起こし、解放後に共産党員になり、大学卒業後新疆に赴任し、地質調査隊の一員として石油探査に携わった。1957 年末、ジュンガル盆地で野外調査をしていたところに吹雪に巻き込まれて、祖国のために殉職した

(図 84)。

中国人たちが如何に「祖国の一部である新疆の発展」に努力してきたかを標榜しようとしている。

23.『庫爾班・吐魯木』、王哲武撰文、姜浩林絵画、2007年12月

物語のあらすじ:

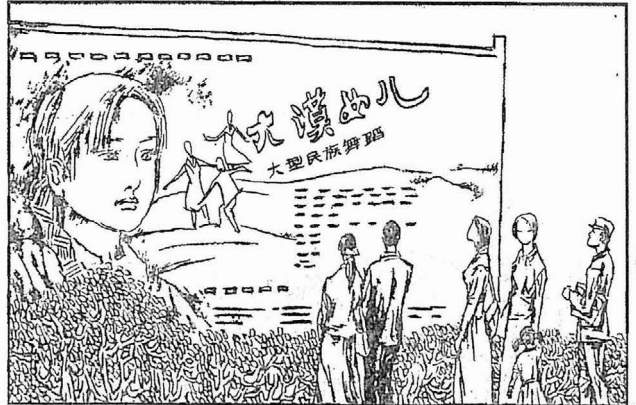
ウイグル人のクルバン・トルムは南新疆のホータンに住んでいた。解放前は金持ちに搾取されてばかりで、生活が苦しかった。1949年に毛主席は「偉大な人民解放軍」を派遣してきたので、暮らしも良くなった。共産党に恩返ししたいと思った彼はずっと「各民族の指導者毛主席」に会いたがっていた(図 85)。1958年夏、政府は彼に暖かい援助の手を差し伸ばし、北京まで送り届けた。彼は幸運にも毛主席に会うことができた。今日においても、ウイグル人たちの毛主席を熱愛する気持ちは変わっていない(図 86)。

これは、中国ではとても有名な話である。中国と中国人の指導者を熱愛するウイグル人は「愛国主義者」で、自らの民族の英雄を愛すれば、分裂主義者とされる。きわめて形式的なストーリーである。



15 经过减租反霸, 库尔班·吐鲁木开始过上了吃得饱、穿得暖的生活, 他打心眼里感激毛主席和共产党。

図 85: ウイグル人は毛主席に感謝している



93 新疆各族人民没有忘记这位将军的女儿。1997年杨拯陆的感人事迹被创作成当代民族舞蹈《大漠女儿》, 上演后轰动全国, 连获“文华”和“五个一工程”两项大奖。

図 84: 新疆の各民族の人民は彼女、祖国のために石油を見つけた人を忘れない



94 流传了半个世纪的库尔班·吐鲁木见毛主席的故事, 充分表达了新疆各族人民对共产党、毛主席的无限热爱之情。

図 86: 今日においても、ウイグル人たちは共産党と毛主席に感謝している

III おわりに

2009年7月5日に勃発したウルムチ暴動により、新疆ウイグル自治区に深刻な民族問題が存在している事実は世界に知れ渡るようになった。中国人たちはいつも新疆を「祖国の西域やシルクロード」だと呼んでロマンチックに語る(劉燕子 2011: 452-453)。しかし、実際の新疆ウイグル自治区は場合によっては、「中国のパレスチナ」に化す危険性もしばしば指摘されている(王力雄 2007: 420-473; 楊 2011)。中国政府は歴史上のどの王朝よりも積極的に移民を進め、生産建設兵団による屯田政策を強化している(Starr 2003)。その結果、新疆はウイグル人の故郷であるにも関わらず、彼らは自らのオアシスで少数派に転落した(Bovingdon 2010)。「東トルキスタン」というウイグル人の生来の権利を端的に示す地名も今日の中国で堅く禁止されている。これらの事実は、いわゆる自治も所詮は虚

名に過ぎず、少数民族の自治区は中国の植民地である真実を物語っている（楊 2012:140-155）。清朝の乾隆年間に「新たに征服した疆域」を素朴に表した「新疆」という地名自体が、同地域における中国による侵略と支配の非正統性を示している。班超のごとき、漢代に現れた中国人テロリストのテロルを根拠に「古くから我が国の固有の領土でありつづけた」と主張する声は、中央アジアの住民であるウイグル人たちにとっては、まったく説得力を有していない。彼らからすると、そもそももともと体系的な支配制度を敷いた清朝も満洲人の征服王朝であって、中国人の政権ではないので、ウイグル人もモンゴル人と同じように満洲人の権威にしたがっていただけで、中国人に屈服したわけではないのである。

小文には新疆画叢が出した小児書シリーズの内容が「史実」として「正しい」かどうかを検証する意図はない。正しいか否かは別として、その特徴を以下のようにまとめることができる。

一、小児書はどれも新疆が古くから「我が国の固有の領土」である点を極端に強調している。その証拠は中国人すなわち漢人との通婚を挙げることが多い。ある文化人類学者の分析によると、漢人の血が一滴でも混ざっていれば、もう通婚の相手は「中国の婿」とされ、知らぬ間に婿の国も「中国の領土」にされてしまうレトリックがあるという（Bulag 2002）。小児書はまた中国人も新疆に住んでいたことを羅列して、極力、今日との繋がりを示そうとしている。

二、匈奴や突厥を排除し、親漢の政権を建てた経緯を正義だとし、匈奴と突厥を悪として描いている。この点は、モンゴル人たちは匈奴を祖先として仰ぎ、ウイグル人は突厥の後裔を自認している事実を意識しているだろう。ウイグル人たちがもし中国人を排除しようとする政治活動をすれば、彼らもまた古代の匈奴や突厥のように「強大にして正義の漢もしくは唐」のような中央政府によって鎮圧される運命にあることを暗示している。古代から現代に至るまで、少数民族の対中央政府の反乱は悪で、鎮圧行為は善だという論調が貫かれている。一般的にマルクス・レーニン主義の思想を建前とする中国では農民の反乱を「起義」（義挙）だとし、政府側からの鎮圧にも批判してきたが、ことに少数民族に対しては別の基準があるようだ。近現代において、中国共産党の新疆進出に抵抗したウイグル人やカザフ人をも例外なく反乱者としてあつかう方法には、古代における匈奴や突厥の「反乱」を描写するのとまったく同じ言葉や同様なシーンが用いられている。中国と中国政府を絶対的な善とし、西域ないしは新疆側の抵抗を完全なる悪だとしている原則は固く守られている。

三、古代の西域の諸民族の姿は平板に今日のウイグル人のように描かれている。中国人以外の人々は、一見、純朴そうに見えるが、実際は愚かそうに描写されている。少数民族の風俗習慣を描いたところはきわめてステレオタイプである。たとえば、ウイグル人は必ずいわゆる「ウイグル帽」をかぶり、太鼓やドムブラという楽器を手にしている。そして、少数民族は常に中国人を「熱烈歓迎」しているように創られている。逆にいうと、中国人たちは少数民族にとって、「歓迎」されている役を演じようとしている。

私はウイグル人ではないし、小児書そのものは好きである。しかし、それでも、その内容と絵の描き方を見てみると、気分が非常に悪くなるような構造となっている。たぶん、中国人すなわち漢人の子どもたちはこれらのものを見て、「古くから我が国の固有の領土」の広さと「人種」や「文化」の多様さに強烈な誇りを持つようになるだろうが、逆に少数民族の人たちは余計、中国人たちに対して強烈な憎悪の念を抱くようになるのではなかろうか。

中国において、小児書の収集（小児書収蔵）は今、大きなブームとなっている。1950年代から1960年代にかけて出版されたものは、高価で取引されている。中国全土で出された小児書を網羅しようとしたカタログも現れるようになった（王忠民ほか 2002）。中国では、例えば、もっぱら革命故事を集めるコレクターもいれば、歴史物語に特化した収集家もいる。内容はどうであれ、私も小児書のファンである。私は長いこと「国境地帯に住む少数民族」を描いた小児書を集めてきた。「少数民族を

題材とした小児書」のコレクションを構築するのが私の目的である。紙幅とテーマの制限から、今回は詳しく述べる余裕はないが、国境地帯に暮らす少数民族を描いた小児書はほとんど、その主人公たちがいかに「中国を熱愛」し、「偉大な祖国中国の国境を守ってきたか」を主な内容としている。実態は国境地帯に住む人々は多重の帰属意識をもち、そのときどきの政治情勢と国際関係の変動にしたがって振り子のように揺れ動いてきたのである（楊 2010）。それでも、少年に対する政治教育（洗脳）では、常に「祖国を熱愛する少数民族像」を創って、「幸せな多民族の大家庭」を想像しなければならないのである。

「国家の利益は至上」の命題だ、と中国は新疆を指して主張し（馬大正 2003）、ウイグル人たちの主張を簡単に「テロ」だと解釈して弾圧を続けている。「国家利益」が掲げられた時に、中国人たちはたいてい無条件で政府を支持し、ナショナリズムに傾斜する。愛国主義教育の結果である。

中国の愛国主義教育は今や日本と切ってもきれない関係にある。去る 2012 年夏に首都北京はじめ、各地で展開された大規模な反日デモは、中国のナショナリズムが極端に高揚してきた事実を全世界に示した（楊 2013）。世界に深刻な影響を及ぼしつつある中国のナショナリズムはいかに醸成され、その中味はどのように構成されているかを解明する必要性が高まっているといえよう。そういう意味で、政治的なメッセージ性の強い中国の小児書が少年たちに与える影響について研究することは、ナショナリズムの形成を究明するのにも寄与できよう。言い換えれば、現代中国における小児書に関する研究はそのままナショナリズム討究にもつながる可能性がある。

人は生まれながらにして一様であったろうが、『少年ジャンプ』のたぐいを手にして育った日本人と、小児書を読みふけて大きくなった中国人はおのずから異なる価値観を抱くようになる。そこに、日中両国間の差異が認められよう。

参考文献

Bovingdon Gardner

2010 *The Uyghurs, Strangers in their Own Land*, New York: Columbia University Press.

Bulag, Uradyn, E

2002 *The Mongols at the China's Edge*, New York: Rowman & Littlefield Publishers, Inc.

Starr, S. Frederick

2003 *Xinjiang, China's Muslim Borderland*, New York: Armonk.

王力雄

2007 『我的西域 你的東土』、台湾大塊文化。

王忠明 張振華 卞強生 帰琪 沈冶六

2002 『連環画收藏』、黒龍江美術出版社。

楠木賢道

1995 「バレン郷事件」松原正毅編『世界民族問題事典』、平凡社。

堀直

1995 「ウルムチ事件」、「新疆ウイグル自治区」松原正毅編『世界民族問題事典』、平凡社。

馬大正

2003 『国家利益高於一切——新疆穩定問題的觀察與思考』、新疆人民出版社。

楊海英

2010 「〈民族分裂主義者〉と〈中華民族〉——〈中国人〉とされたモンゴル人の現代史」塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流——近現代中国の南と北』、有志舎。

2011 「書評 王力雄著・馬場裕之訳 劉燕子監修 / 解説『私の西域 君の東トルキスタン』」、『図書新聞』第 3017 号。

2012 「植民地支配と大量虐殺、そして文化的ジェノサイド——中国の民族問題研究への新視座」岩波書店『思想』第 1060 号。

2013 『中国の官制ナショナリズム』（印刷中）、勉誠出版。

劉燕子

2011 「解説 王力雄『私の西域 君の東トルキスタン』を読む—新疆のパレスチナ化への警鐘」王力雄著・馬場裕之訳 劉燕子監修 / 解説『私の西域 君の東トルキスタン』、集広社。